

**2021年度
教職・資格（多摩）
講義概要（シラバス）**



法政大学

科目一覽

〔発行日：2021/5/1〕最新版のシラバスは、法政大学 Web シラバス (<https://syllabus.hosei.ac.jp/>) で確認してください。

教職関係科目	[L3101]	教職入門 [綿貫 公平]	春学期授業/Spring	1
教職関係科目	[L3102]	教職入門 [綿貫 公平]	春学期授業/Spring	2
教職関係科目	[L3105]	教育原理 [御園生 純]	春学期授業/Spring	3
教職関係科目	[L3103]	教育原理 [御園生 純]	春学期授業/Spring	4
教職関係科目	[L3104]	教育の制度・経営 [福畠 真治]	春学期授業/Spring	5
教職関係科目	[L3106]	教育の制度・経営 [福畠 真治]	秋学期授業/Fall	6
教職関係科目	[L3107]	教育心理学 [安齊 順子]	秋学期授業/Fall	7
教職関係科目	[L3108]	教育心理学 [安齊 順子]	秋学期授業/Fall	8
教職関係科目	[L3109]	教育相談 [沼田 あや子]	春学期授業/Spring	9
教職関係科目	[L3110]	教育相談 [沼田 あや子]	秋学期授業/Fall	10
教職関係科目	[L3115]	生徒・進路指導論 [谷川 由佳]	春学期授業/Spring	11
教職関係科目	[L3116]	生徒・進路指導論 [谷川 由佳]	春学期授業/Spring	12
教職関係科目	[L3164]	社会・地歴科教育法 (1) [石出 法太]	春学期授業/Spring	13
教職関係科目	[L3165]	社会・地歴科教育法 (2) [石出 法太]	秋学期授業/Fall	14
教職関係科目	[L3166]	社会・公民科教育法 (1) [松山 尚寿]	春学期授業/Spring	15
教職関係科目	[L3167]	社会・公民科教育法 (2) [松山 尚寿]	秋学期授業/Fall	16
教職関係科目	[L3168]	情報科教育法 I [御園生 純]	春学期授業/Spring	17
教職関係科目	[L3169]	情報科教育法 II [御園生 純]	秋学期授業/Fall	18
教職関係科目	[L3123]	道徳教育指導論 [石神 真悠子]	秋学期授業/Fall	19
教職関係科目	[L3114]	道徳教育指導論 [石神 真悠子]	春学期授業/Spring	20
教職関係科目	[L3117]	特別活動論 [桐島 次郎]	秋学期授業/Fall	21
教職関係科目	[L3118]	特別活動論 [桐島 次郎]	秋学期授業/Fall	22
教職関係科目	[L3119]	教育課程論 [三浦 芳恵]	秋学期授業/Fall	23
教職関係科目	[L3120]	教育課程論 [三浦 芳恵]	秋学期授業/Fall	23
教職関係科目	[L3121]	教育方法論 [酒井 英光]	春学期授業/Spring	24
教職関係科目	[L3122]	教育方法論 [酒井 英光]	秋学期授業/Fall	25
教職関係科目	[L3160]	特別な教育的ニーズの理解と支援 [山下 洋児]	春学期授業/Spring	26
教職関係科目	[L3161]	特別な教育的ニーズの理解と支援 [山下 洋児]	秋学期授業/Fall	27
教職関係科目	[L3163]	総合的な学習の時間の指導法 [本山 明]	春学期授業/Spring	28
教職関係科目	[L3162]	総合的な学習の時間の指導法 [本山 明]	秋学期授業/Fall	29
教職関係科目	[L3136]	教育実習 (事前指導) [小嶋 常喜]	秋学期授業/Fall	30
教職関係科目	[L3137]	教育実習 (事前指導) [本山 明]	秋学期授業/Fall	31
教職関係科目	[L3135]	教育実習 (事前指導) [高橋 繁]	秋学期授業/Fall	32
教職関係科目	[L3133]	教育実習 (事前指導) [御園生 純]	秋学期授業/Fall	33
教職関係科目	[L3139]	教育実習 (高) [永木 耕介]	年間授業/Yearly	34
教職関係科目	[L3138]	教育実習 (中・高) [永木 耕介]	年間授業/Yearly	34
教職関係科目	[L3128]	教職実践演習 (中・高) [小嶋 常喜]	秋学期授業/Fall	35
教職関係科目	[L3129]	教職実践演習 (中・高) [本山 明]	秋学期授業/Fall	36
教職関係科目	[L3127]	教職実践演習 (中・高) [高橋 繁]	秋学期授業/Fall	37
教職関係科目	[L3125]	教職実践演習 (中・高) [御園生 純]	秋学期授業/Fall	38
資格関係科目	[L3151]	社会教育経営論 [荒井 容子]	年間授業/Yearly	39
資格関係科目	[L3152]	社会教育総合演習 (実習を含む) [江頭 晃子]	年間授業/Yearly	40
資格関係科目	[L3153]	生涯学習支援論 [栗山 究]	年間授業/Yearly	41
資格関係科目	[N0651]	視聴覚教育 I [原田 雅子]	秋学期授業/Fall	42
資格関係科目	[L3156]	視聴覚教育 II [原田 雅子]	秋学期授業/Fall	43
資格関係科目	[N0652]	視聴覚教育 II [原田 雅子]	秋学期授業/Fall	44

教職入門

綿貫 公平

配当年次／単位：1～4 年次／2 単位

開講時期：春学期授業/Spring

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「学校のいま」と、子どもたちとともに生きる「教師の困難と希望」、これからの学校と教育の課題、教職の意義及び教員の役割を学び合い、語り合い、その在り方を問う。

※授業計画は授業の展開によって、若干の変更がありうる。

【到達目標】

教職を将来の選択肢の一つとして考え、教職の意義、教員の役割、職務内容等について基本的な知識や考え方を理解し、教職に就くとはどういうことか、そのためにどのようなことを学び、身につけておかなければならないのかなど、自らの適性を判断して教職への意欲を高める。

今なお「競い合う」学校と教育は強化され、その政策動向は社会的に大きな論争的課題となっている。当時、就学前だった（であろう）学生のみならず、可能な限り具体的に「教職」の現状と課題を考えること。みなさん一人ひとりがテーマを持って「教職」に一歩踏み出す、近づいていただくことを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

*教職（学校の仕事）をめぐる現状と課題、意義と役割を、講師の体験や具体的事例を通して伝え、時にグループワークも加えて、実践的に考察する。授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、コメントを付した「講義通信」を毎回発行し、それをもとに全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
①	オリエンテーション	自己紹介…教職の意義及び教員の役割を考える。4年間の学びをイメージする。
②	教師の一日	教職の困難と希望「学校は、子どもたちは変わったのか」
③	教科指導	ともに学ぶ「勉強は何のために？」
④	生徒指導	ともに学ぶ「うざい、きもい、むかつく、死ね！」N子との出会い。
⑤	生徒指導	ともに学ぶ「登校拒否・不登校」の問題から考えること。
⑥	生徒指導	教職の課題「いじめ」問題から考えること（1）生徒会活動
⑦	生徒指導	教職の課題「いじめ」問題から考えること（2）「道徳」の時間に
⑧	生徒指導	学校給食：「食の教科書としての…」
⑨	特別活動	学校行事をつくる
⑩	特別活動	「部活動」をどうする？！
⑪	進路指導	「キャリア教育」心がけたこと～つながり・つなげる・つながる学校と地域
⑫	進路指導	「キャリア教育」教師としての転換点：同時代・同世代を生きること
⑬	進路指導	「キャリア教育」文学や映像作品に学ぶ「人間的成長」
⑭	まとめ、期末テスト	今日の学校と教育の課題（今日の課題整理、あらためて教員の職務内容など）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自分自身の「小学校／中学校／高校時代」を、その時々・事前のアンケート等で思い起こしてほしい。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定なし。内容に即して毎回検討資料を配布する。

【参考書】

全国進路指導研究会編『働くことを学ぶ』（明石書店／2006）、吉野源三郎『君たちはどう生きるか』（岩波文庫）、朝日新聞教育チーム『いま、先生は』（岩波書店／2011）、学習指導要領、生徒指導提要（文部科学省※PDFでダウンロード可能）他、授業で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

基本的な知識や考え方を理解できること、4年間の教職課程の学びに主体的に取り組む意思があることを総合的に評価する。具体的には、授業への参加姿勢、授業への貢献（RP用紙）70%、「中間レポート」及び講義のまとめとしての「期末考査」30%で評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

*学生の指摘もあり、「グループワーク」の機会を増やし、今日的課題なテーマも取り上げた。引き続き、教職を目指す学生らしい、目的意識的な参加を求めたい。

【学生が準備すべき機器他】

DVD、ビデオ等。

【その他の重要事項】

講師は、2012年まで都内公立中学校に35年間勤務した。定年退職後は、子ども・若者の支援を主とするNPO法人理事兼若者支援事業スタッフとして、引きこもっていた若者の就労に向けた活動をおこなっている。また、全国進路指導研究会の世話人として、学校現場に資する研究活動を続けている。2007～2014年：法政大学キャリアデザイン学部で兼任講師「キャリア教育／学校論」を担当した。

【Outline and objectives】

In this lecture, people aiming for the teaching profession will learn fundamental matters related to teaching jobs, and will decide their aptitude and will aim to raise motivation for the teaching profession. We will examine the current situations of school education and school teachers, their careers, future issues and so on.

教職入門

綿貫 公平

配当年次／単位：1～4 年次／2 単位

開講時期：春学期授業/Spring

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「学校のいま」と、子どもたちとともに生きる「教師の困難と希望」、これからの学校と教育の課題、教職の意義及び教員の役割を学び合い、語り合い、その在り方を問う。

※授業計画は授業の展開によって、若干の変更がありうる。

【到達目標】

教職を将来の選択肢の一つとして考え、教職の意義、教員の役割、職務内容等について基本的な知識や考え方を理解し、教職に就くとはどういうことか、そのためにどのようなことを学び、身につけておかなければならないのかなど、自らの適性を判断して教職への意欲を高める。

今なお「競い合う」学校と教育は強化され、その政策動向は社会的に大きな論争的課題となっている。当時、就学前だった（であろう）学生のみならず、可能な限り具体的に「教職」の現状と課題を考えること。みなさん一人ひとりがテーマを持って「教職」に一步踏み出す、近づいていただくことを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

*教職（学校の仕事）をめぐる現状と課題、意義と役割を、講師の体験や具体的事例を通して伝え、時にグループワークも加えて、実践的に考察する。授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、コメントを付した「講義通信」を毎回発行し、それをもとに全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
①	オリエンテーション	自己紹介…教職の意義及び教員の役割を考える。4年間の学びをイメージする。
②	教師の一日	教職の困難と希望「学校は、子どもたちは変わったのか」
③	教科指導	ともに学ぶ「勉強は何のために？」
④	生徒指導	ともに学ぶ「うざい、きもい、むかつく、死ね！」N子との出会い。
⑤	生徒指導	ともに学ぶ「登校拒否・不登校」の問題から考えること。
⑥	生徒指導	教職の課題「いじめ」問題から考えること（1）生徒会活動
⑦	生徒指導	教職の課題「いじめ」問題から考えること（2）「道徳」の時間に
⑧	生徒指導	学校給食：「食の教科書としての…」
⑨	特別活動	学校行事をつくる
⑩	特別活動	「部活動」をどうする？！
⑪	進路指導	「キャリア教育」心がけたこと～つながり・つなげる・つながる学校と地域
⑫	進路指導	「キャリア教育」教師としての転換点：同時代・同世代を生きること
⑬	進路指導	「キャリア教育」文学や映像作品に学ぶ「人間的成長」
⑭	まとめ、期末テスト	今日の学校と教育の課題（今日の課題整理、あらためて教員の職務内容など）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自分自身の「小学校／中学校／高校時代」を、その時々・事前のアンケート等で思い起こしてほしい。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定なし。内容に即して毎回検討資料を配布する。

【参考書】

全国進路指導研究会編『働くことを学ぶ』（明石書店／2006）、吉野源三郎『君たちはどう生きるか』（岩波文庫）、朝日新聞教育チーム『いま、先生は』（岩波書店／2011）、学習指導要領、生徒指導提要（文部科学省※PDFでダウンロード可能）他、授業で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

基本的な知識や考え方を理解できること、4年間の教職課程の学びに主体的に取り組む意思があることを総合的に評価する。具体的には、授業への参加姿勢、授業への貢献（RP用紙）70%、「中間レポート」及び講義のまとめとしての「期末考査」30%で評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

*学生の指摘もあり、「グループワーク」の機会を増やし、今日的課題なテーマも取り上げた。引き続き、教職を目指す学生らしい、目的意識的な参加を求めたい。

【学生が準備すべき機器他】

DVD、ビデオ等。

【その他の重要事項】

講師は、2012年まで都内公立中学校に35年間勤務した。定年退職後は、子ども・若者の支援を主とするNPO法人理事兼若者支援事業スタッフとして、引きこもっていた若者の就労に向けた活動をおこなっている。また、全国進路指導研究会の世話人として、学校現場に資する研究活動を続けている。2007～2014年：法政大学キャリアデザイン学部で兼任講師「キャリア教育／学校論」を担当した。

【Outline and objectives】

In this lecture, people aiming for the teaching profession will learn fundamental matters related to teaching jobs, and will decide their aptitude and will aim to raise motivation for the teaching profession. We will examine the current situations of school education and school teachers, their careers, future issues and so on.

教育原理

御園生 純

配当年次／単位：1～4 年次／2 単位

開講時期：春学期授業/Spring

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

教育や学びの場面は学校の中に限られたものではありません。この講義では社会に息づく様々な場面での学びの機会を紹介し、そのありようを教員を目指す人たち同士の共通の題材として討議していくことを通じて、「関係性の中で学ぶ」ということへの理解を深めていきたい。また受講者が体験してきた学校や教育というものを様々な角度から捉えなおすことをつうじて過去の教育理論の概念を理解することをねらいとしています。

【到達目標】

教育の理論的・歴史的背景の理解
 学校の制度的な位置づけ
 教員の職制と専門性の理解

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

学校・教育にかかわる時節的なテーマを取り上げ、それらについてのさまざまな主張や意見の紹介を骨子にした講義形式の授業スタイルです。また、受講者からの意見もその都度メールなどを利用して集約し、授業中に紹介していきます。この講義では社会に息づく様々な場面での学びの機会を歴史・現在あわせて紹介し、そのありようを教員を目指す人たち同士の共通の題材として討議していきます。その際、とりわけ近年注目されている学習理論や教育関係理論、また学校を取り巻く新しい課題「情報化・国際化・人権・環境」といった時節的なテーマを題材にし、それらの現象の理解を深めていきます。また受講者が体験してきた学校や教育というものを様々な角度から捉えなおすことをつうじて過去の教育理論の概念を理解することもねらいとします。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行います。各課題について受講生毎に講評します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	教育とはなにか？ その起源と学校～近代以前	学校の始まり～ヒマ人の集うところ？
2	教育とはなにか？ その起源と学校～近代以降	なぜ学校が必要だったのか？
3	人間の誕生の特質と発達観	子どもとはなにか？ おとなになるということ
4	発達の多様性と教育の課題	発達を保証するための教育の役割
5	教育思想の源流と現在（西洋）古代から中世～近代そして現代	子どもの発見
6	教育思想の源流と現在（日本）近世から近代そして現代	日本の教育の始まりと発展
7	発達の保障と共生の課題(1)	発達保障論の系譜
8	発達の保障と共生の課題(2)	発達保障と共生理論
9	学習理論の歴史と現段階一関係性のなかで学ぶ(1)	なぜ初歩から学ぶのか？
10	学習理論の歴史と現段階一関係性のなかで学ぶ(2)	分かち持たれる知性
11	教育関係論の過去と現在一おとなと子どもの関係論	おとなと子どもの境界線
12	教育関係論の過去と現在一発達段階と教育保障	発達論から関係論へ
13	学校教育の機能と役割を問う(1)	学校の相対化
14	学校教育の機能と役割を問う(2)	IT 技術と教育

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

とくにありません。授業中に配布するプリント類は重要かもしれませんが、プリントさえ手に入れば授業を受けなくても何とかかなる、というものでもありません。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

授業中に指示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点 30%

課題 70%

【学生の意見等からの気づき】

双方向性を重視し、問題提起型の授業により受講者に考察可能な実際の学校で起こっている教育にかかわる諸問題の解決方法を討議の対象とする。また、講義と同期した twitter のハッシュタグ等を利用したりリアルタイムポストなども実施していきたい。

【Outline and objectives】

The History of education, in the relationship of politics, economy, society family. Some basic concepts of education, some educational thoughts. Active learning; group discussion about today's educational issues

教育原理

御園生 純

配当年次／単位：1～4 年次／2 単位

開講時期：春学期授業/Spring

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

教育や学びの場面は学校の中に限られたものではありません。この講義では社会に息づく様々な場面での学びの機会を紹介し、そのありようを教員を目指す人たち同士の共通の題材として討議していくことを通じて、「関係性の中で学ぶ」ということへの理解を深めていきたい。また受講者が体験してきた学校や教育というものを様々な角度から捉えなおすことをつうじて過去の教育理論の概念を理解することをねらいとしています。

【到達目標】

教育の理論的・歴史的背景の理解
 学校の制度的な位置づけ
 教員の職制と専門性の理解

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

学校・教育にかかわる時節的なテーマを取り上げ、それらについてのさまざまな主張や意見の紹介を骨子にした講義形式の授業スタイルです。また、受講者からの意見もその都度メールなどを利用して集約し、授業中に紹介していきます。この講義では社会に息づく様々な場面での学びの機会を歴史・現在あわせて紹介し、そのありようを教員を目指す人たち同士の共通の題材として討議していきます。その際、とりわけ近年注目されている学習理論や教育関係理論、また学校を取り巻く新しい課題「情報化・国際化・人権・環境」といった時節的なテーマを題材にし、それらの現象の理解を深めていきます。また受講者が体験してきた学校や教育というものを様々な角度から捉えなおすことをつうじて過去の教育理論の概念を理解することもねらいとします。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行います。各課題について受講生毎に講評します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	教育とはなにか？ その起源と学校～近代以前	学校の始まり～ヒマ人の集うところ？
2	教育とはなにか？ その起源と学校～近代以降	なぜ学校が必要だったのか？
3	人間の誕生の特質と発達観	子どもとはなにか？ おとなになるということ
4	発達の多様性と教育の課題	発達を保証するための教育の役割
5	教育思想の源流と現在（西洋）古代から中世～近代そして現代	子どもの発見
6	教育思想の源流と現在（日本）近世から近代そして現代	日本の教育の始まりと発展
7	発達の保障と共生の課題（1）	発達保障論の系譜
8	発達の保障と共生の課題（2）	発達保障と共生理論
9	学習理論の歴史と現段階—関係性のなかで学ぶ（1）	なぜ初歩から学ぶのか？
10	学習理論の歴史と現段階—関係性のなかで学ぶ（2）	分かち持たれる知性
11	教育関係論の過去と現在—おとなと子どもの関係論	おとなと子どもの境界線
12	教育関係論の過去と現在—発達段階と教育保障	発達論から関係論へ
13	学校教育の機能と役割を問う（1）	学校の相対化
14	学校教育の機能と役割を問う（2）	IT 技術と教育

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

とくにありません。授業中に配布するプリント類は重要かもしれませんが、プリントさえ手に入れば授業を受けなくても何とかかなる、というものでもありません。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

授業中に指示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点 30%
 課題 70%

【学生の意見等からの気づき】

双方向性を重視し、問題提起型の授業により受講者に考察可能な実際の学校で起こっている教育にかかわる諸問題の解決方法を討議の対象とする。また、講義と同期した twitter のハッシュタグ等を利用したりリアルタイムポストなども実施していきたい。

【Outline and objectives】

The History of education, in the relationship of politics, economy, society family. Some basic concepts of education, some educational thoughts. Active learning; group discussion about today's educational issues

教育の制度・経営

福島 真治

配当年次／単位：1～4 年次／2 単位

開講時期：春学期授業/Spring

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

授業の構成は、大きく二分される。一つは、学校の組織・経営を枠付け、規制する公教育や行財政の法制度やしぐみを理解し考えることである。もう一つが、学校の組織・経営を具体的な諸側面において理解し考えることであり、危機管理や安全対策、地域との連携も取り上げる。

【到達目標】

日本の学校教育に関する制度的及び経営的なトピックを取り上げ、教員として必須な公教育の法制度及び学校の組織・経営に関わる基礎的理解を促す。学校組織・経営の基礎知識には、地域との連携、安全と危機管理もふくまれる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

講義を中心に、グループディスカッション等を用いて、各回のテーマについて理解と考察を進める。各回では、コメントシートの提出を求める。そこで出された疑問・質問等は、次回以降の講義冒頭で応答する。

本授業は、基本的には (1) Zoom を使用してのオンライン授業・(2) 資料等の掲示による課題提出、の 2 通りの方法で進めていく。

「(1) Zoom を使用してのオンライン授業」に関して、授業用の URL は授業日までに学習支援システムで掲示する。

「(2) 資料等の掲示による課題提出」に関して、資料等は授業時間開始前までに、学習支援システムにアップする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション（現代社会と学校改革）	現在の社会全体が抱える課題と、それに向き合っている学校制度の変遷について簡単に紹介し、講義の概要と評価方法の説明を行う。
第 2 回	世界の教育改革	PISA や TALIS 等の国際調査の結果を概観しながら、世界の教育の状況を確認した上で、日本と諸外国の教育制度の比較を行う。
第 3 回	憲法・教育基本法	日本国憲法及び教育基本法が定めている教育に関する諸権利と、それが実際の場面でどのように保障されているかについて解説する。
第 4 回	教育行政のしくみ	国と地方教育行政機関の構造や実際の働きを説明した上で、教育という営為が全国でどのように展開しているのかを検討する。
第 5 回	学習指導要領と教科書制度	学習指導要領の性質を理解し、それがどのような仕組みによって各学校で具体化されているかを解説する。
第 6 回	教育財政制度と無償化	教育の無償化に関する議論を踏まえながら、中央・地方の教育財政（リソースの管理・運営）の仕組みを概観する。
第 7 回	学校組織の法としくみ	学校経営を中心とした、学校組織に関する法制度を学ぶことで、実際の現場における学校づくりの実態について考える。
第 8 回	学級経営	学校全体の目的を達成するために、児童・生徒への指導等を通じて教員が取り組む学級経営について、その態様やそこの教員の役割について説明を行う。
第 9 回	学校と教員の評価	学校と教員に対する評価制度の意義やその成立背景を概観し、様々なアクターの学校参加や社会に対しての学校の役割を考える。
第 10 回	教員の成長と同僚性	教員の職能成長に関わる様々な仕組みや法制度について解説を行い、教員が学校組織全体として活動していくための条件を検討する。
第 11 回	子どもの人権と学校	校則、懲戒・体罰、いじめ等の問題のような、学校における子どもの人権に関する議論やその保障のあり方を解説し、現場での実現の方途を検討する。

第 12 回 学校の危機管理と安全対策

学校で発生する事件や災害等に対する備えや対策について、危機管理やレジリエンスの観点から解説する。

第 13 回 「チームとしての学校」

学校業務の多様化と、それによる教員の多忙化・多忙感の増加という現状を踏まえ、学校内外のアクターによる分業と協働というテーマについて考える。地域社会における学校の役割がより意識されるようになった背景を概観した上で、「様々なアクターとの関わり合いによる学校づくり」とはどういうものなのかを考える。

第 14 回 地域・家庭・多様な専門家に開かれた学校づくり

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

指定しない。

【参考書】

勝野正章・藤本典裕返書『教育行政学（改訂新版）』学文社
小川正人・勝野正章『改定版 教育行政と学校経営』放送大学教育振興会
文部科学省「学習指導要領」（最新版）、同ホームページ上の資料（法令、審議会答申等）

【成績評価の方法と基準】

基礎知識の理解度だけでなく、自らの考えを知識やデータで裏付けて論述できるかを評価する。授業内の発表やコメントペーパー等（40 % 程度）、定期試験（60 % 程度）によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできない。

【学生が準備すべき機器他】

・ZOOM を使用しての講義が中心となるため、そのための環境設定等が必要となる。

・授業支援システムを使用するが、使用の範囲は状況により判断する。

【その他の重要事項】

この科目は、教職課程および社会教育主事課程の認定科目である。

【Outline and objectives】

The content of this class consists of the two parts. The first one is focused on Japanese laws and systems in educational administration and finance.

The second is related to the topics on school organization and management including risk management, safety measure and cooperation with local community,

It is necessary for those who attend the class to understand the basic knowledge of them and consider these matters by themselves.

教育の制度・経営

福島 真治

配当年次／単位：1～4 年次／2 単位

開講時期：秋学期授業/Fall

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

授業の構成は、大きく二分される。一つは、学校の組織・経営を枠付け、規制する公教育や行財政の法制度やしくみを理解し考えることである。もう一つが、学校の組織・経営を具体的な諸側面において理解し考えることであり、危機管理や安全対策、地域との連携も取り上げる。

【到達目標】

日本の学校教育に関する制度的及び経営的なトピックを取り上げ、教員として必須な公教育や行財政の法制度及び学校の組織・経営に関わる基礎的理解を促す。学校組織・経営の基礎知識には、地域との連携、安全と危機管理もふくまれる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

講義を中心に、グループディスカッション等を用いて、各回のテーマについて理解と考察を進める。各回では、コメントシートの提出を求める。そこで出された疑問・質問等は、次回以降の講義冒頭で応答する。

本授業は、基本的には (1) Zoom を使用してのオンライン授業・(2) 資料等の掲示による課題提出、の 2 通りの方法で進めていく。

「(1) Zoom を使用してのオンライン授業」に関して、授業用の URL は授業日までに学習支援システムで掲示する。

「(2) 資料等の掲示による課題提出」に関して、資料等は授業時間開始前までに、学習支援システムにアップする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション（現代社会と学校改革）	現在の社会全体が抱える課題と、それに向き合っている学校制度の変遷について簡単に紹介し、講義の概要と評価方法の説明を行う。
第 2 回	世界の教育改革	PISA や TALIS 等の国際調査の結果を概観しながら、世界の教育の状況を確認した上で、日本と諸外国の教育制度の比較を行う。
第 3 回	憲法・教育基本法	日本国憲法及び教育基本法が定めている教育に関する諸権利と、それが実際の場面でどのように保障されているかについて解説する。
第 4 回	教育行政のしくみ	国と地方教育行政機関の構造や実際の働きを説明した上で、教育という営為が全国でどのように展開しているのかを検討する。
第 5 回	学習指導要領と教科書制度	学習指導要領の性質を理解し、それがどのような仕組みによって各学校で具体化されているかを解説する。
第 6 回	教育財政制度と無償化	教育の無償化に関する議論を踏まえながら、中央・地方の教育財政（リソースの管理・運営）の仕組みを概観する。
第 7 回	学校組織の法としくみ	学校経営を中心とした、学校組織に関する法制度を学ぶことで、実際の現場における学校づくりの実態について考える。
第 8 回	学級経営	学校全体の目的を達成するために、児童・生徒への指導等を通じて教員が取り組む学級経営について、その態様やそこの教員の役割について説明を行う。
第 9 回	学校と教員の評価	学校と教員に対する評価制度の意義やその成立背景を概観し、様々なアクターの学校参加や社会に対しての学校の役割を考える。
第 10 回	教員の成長と同僚性	教員の職能成長に関わる様々な仕組みや法制度について解説を行い、教員が学校組織全体として活動していくための条件を検討する。
第 11 回	子どもの人権と学校	校則、懲戒・体罰、いじめ等の問題のような、学校における子どもの人権に関する議論やその保障のあり方を解説し、現場での実現の方途を検討する。

第 12 回 学校の危機管理と安全対策

学校で発生する事件や災害等に対する備えや対策について、危機管理やレジリエンスの観点から解説する。

第 13 回 「チームとしての学校」

学校業務の多様化と、それによる教員の多忙化・多忙感の増加という現状を踏まえ、学校内外のアクターによる分業と協働というテーマについて考える。地域社会における学校の役割がより意識されるようになった背景を概観した上で、「様々なアクターとの関わり合いによる学校づくり」とはどういうものなのかを考える。

第 14 回 地域・家庭・多様な専門家に開かれた学校づくり

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

指定しない。

【参考書】

勝野正章・藤本典裕返書『教育行政学（改訂新版）』学文社
小川正人・勝野正章『改定版 教育行政と学校経営』放送大学教育振興会
文部科学省「学習指導要領」（最新版）、同ホームページ上の資料（法令、審議会答申等）

【成績評価の方法と基準】

基礎知識の理解度だけでなく、自らの考えを知識やデータで裏付けて論述できるかを評価する。授業内の発表やコメントペーパー等（40 % 程度）、定期試験（60 % 程度）によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできない。

【学生が準備すべき機器他】

・ZOOM を使用しての講義が中心となるため、そのための環境設定等が必要となる。

・授業支援システムを使用するが、使用の範囲は状況により判断する。

【その他の重要事項】

この科目は、教職課程および社会教育主事課程の認定科目である。

【Outline and objectives】

The content of this class consists of the two parts. The first one is focused on Japanese laws and systems in educational administration and finance.

The second is related to the topics on school organization and management including risk management, safety measure and cooperation with local community,

It is necessary for those who attend the class to understand the basic knowledge of them and consider these matters by themselves.

教育心理学

安齊 順子

配当年次／単位：1～4 年次／2 単位

開講時期：秋学期授業/Fall

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

- ・ 幼児、児童及び生徒の心身の発達の過程、外的及び内的要因の相互作用
- ・ 乳幼児期から青年期の各時期における運動発達・言語発達・認知発達・社会性の発達
- ・ 様々な学習の形態や概念及びその過程を説明する代表的理論
- ・ 主体的学習を支える動機づけ・集団づくり・学習評価の在り方
- ・ 主体的な学習活動を支える指導の基礎

【到達目標】

- ・ 幼児、児童及び生徒の心身の発達の過程並びに特徴を理解する。
- ・ 幼児、児童及び生徒の学習に関する基礎的知識を身に付け、発達を踏まえた学習を支える指導について基礎的な考え方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

テキストとパソコンを利用した講義、課題によってはグループ学習の形式も取り入れる（例、アンガーマネジメント実習）。リアクションペーパーは毎回提出する。授業は感染症の状態によりオンラインになる可能性もある。方向性は大学に準ずる。変更等は掲示で知らせる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業上の注意を説明する
2	教育における発達理解の意義	心理学における発達概念を学ぶ
3	対人関係の発達	心理学における発達概念、特に対人関係に注目して学ぶ
4	認知の発達	認知心理学、学習心理学の基礎概念を学ぶ
5	アイデンティティ	青年期の心理的問題について学ぶ
6	学習の理論	古典的条件づけなど大切な学習理論を学ぶ
7	学習の指導	学級の心理学、具体的には、いじめなどについて学ぶ
8	動機づけ	動機づけの理論的背景を学ぶ
9	学習の評価	教育評価とはどのようなものか学ぶ
10	記憶の種類	記憶の種類と、記憶のしくみについて学ぶ
11	性格の理解	人格理解とその歴史について学ぶ
12	性格の様々な測定方法	心理検査、知能検査について詳しく学ぶ
13	発達障害の理解	発達障害について学ぶ
14	発達障害の支援・指導	幼児期、児童期の心理的問題とその解決について学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前の学習 新聞などで子供や学校に関する記事を読むこと。ほかの参考書も用いて学習すること。「教育相談・心理学・臨床心理学・心理学辞典」など他の科目のテキストも参考に学ぶこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

「使える」教育心理学 服部環他著 北樹出版

【参考書】

子安増生ら 2015『教育心理学 第 3 版（ベーシック現代心理学 6）』有斐閣
 文部科学省『中学校学習指導要領』『高等学校学習指導要領』（最新版）
 「やさしい教育心理学」有斐閣アルマ 鎌原 雅彦他著
 「教師のたまごのための教育相談」北樹出版 会沢信彦・安斎順子編著

【成績評価の方法と基準】

定期試験（70％）、授業への積極的参加（30％）で評価

【学生の意見等からの気づき】

毎回プリントを配布して、授業後の感想をもとにやりとりのある授業を心掛けている。

【学生が準備すべき機器他】

なし

【その他の重要事項】

教員はスクールカウンセラーの体験があるためそれについて語る場合がある。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of the mental and physical development of children, learning theory and educational evaluation.

教育心理学

安齊 順子

配当年次／単位：1～4 年次／2 単位

開講時期：秋学期授業/Fall

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

- ・ 幼児、児童及び生徒の心身の発達の過程、外的及び内的要因の相互作用
- ・ 乳幼児期から青年期の各時期における運動発達・言語発達・認知発達・社会性の発達
- ・ 様々な学習の形態や概念及びその過程を説明する代表的理論
- ・ 主体的学習を支える動機づけ・集団づくり・学習評価の在り方
- ・ 主体的な学習活動を支える指導の基礎

【到達目標】

- ・ 幼児、児童及び生徒の心身の発達の過程並びに特徴を理解する。
- ・ 幼児、児童及び生徒の学習に関する基礎的知識を身に付け、発達を踏まえた学習を支える指導について基礎的な考え方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

テキストとパソコンを利用した講義、課題によってはグループ学習の形式も取り入れる（例、アンガーマネジメント実習）。リアクションペーパーは毎回提出する。授業は感染症の状態により、オンラインになる可能性がある。方向性は大学の方針に準ずる。変更等は掲示で知らせる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業上の注意を説明する
2	教育における発達理解の意義	心理学における発達概念を学ぶ
3	対人関係の発達	心理学における発達概念、特に対人関係に注目して学ぶ
4	認知の発達	認知心理学、学習心理学の基礎概念を学ぶ
5	アイデンティティ	青年期の心理的問題について学ぶ
6	学習の理論	古典的条件づけなど大切な学習理論を学ぶ
7	学習の指導	学級の心理学、具体的には、いじめなどについて学ぶ
8	動機づけ	動機づけの理論的背景を学ぶ
9	学習の評価	教育評価とはどのようなものか学ぶ
10	記憶の種類	記憶の種類と、記憶のしくみについて学ぶ
11	性格の理解	人格理解とその歴史について学ぶ
12	性格の様々な測定方法	心理検査、知能検査について詳しく学ぶ
13	発達障害の理解	発達障害について学ぶ
14	発達障害の支援・指導	幼児期、児童期の心理的問題とその解決について学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前の学習 新聞などで子供や学校に関する記事を読むこと。ほかの参考書も用いて学習すること。「教育相談・心理学・臨床心理学・心理学辞典」など他の科目のテキストも参考に学ぶこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

「使える」教育心理学 服部環他著 北樹出版

【参考書】

子安増生ら 2015『教育心理学 第 3 版（ベーシック現代心理学 6）』有斐閣
文部科学省『中学校学習指導要領』『高等学校学習指導要領』（最新版）
「やさしい教育心理学」有斐閣アルマ 鎌原 雅彦他著
「教師のたまごのための教育相談」北樹出版 会沢信彦・安斎順子編著

【成績評価の方法と基準】

定期試験（70 %）、授業への積極的参加（30 %）で評価

【学生の意見等からの気づき】

毎回プリントを配布して、授業後の感想をもとにやりとりのある授業を心掛けている。

【学生が準備すべき機器他】

なし

【その他の重要事項】

教員はスクールカウンセラーの体験があるためそれについて語る場合がある。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of the mental and physical development of children, learning theory and educational evaluation.

教育相談

沼田 あや子

配当年次／単位：1～4 年次／2 単位

開講時期：春学期授業/Spring

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

教育相談活動の基礎知識、方法、対人援助のための姿勢を学ぶ

【到達目標】

教育相談を進めるにあたり、幼児、児童及び生徒の発達の状況に即しつつ、個々の心理的特質や教育的課題を適切にとらえ、支援するために必要な基礎的知識を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

授業は講義中心となります。ただし、教育相談においては意見の多様性が大切ですので、ディスカッションもおこないます。学校現場の具体的な事例をもとに、子どもの理解と対処方法を一緒に考えていきましょう。ゲストを招いての講義を1回おこなう予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業概要と成績評価方法についての説明。教師がカウンセリングについて学ぶ意味を考える。
2	スクールカウンセリングの実際：問題の見方、対策の立て方	具体的な相談事例をもとに、学校内外との連携について学ぶ。
3	幼児期、児童期の発達	身体、思考、対人関係の発達など、人間の発達の基礎知識について学ぶ。
4	思春期、青年期の発達	思春期、青年期の心理発達の諸理論を学び、現代の若者理解について考える。
5	発達障害とは	発達障害（自閉症スペクトラム、学習障害、ADHD）の基礎知識について学ぶ。
6	発達障害をもつ子への支援	発達障害をもつ児童生徒に対して、学校現場での具体的な支援について学ぶ。
7	精神障害と虐待	気分障害、身体表現性障害、統合失調症について学ぶ。また、PTSDの背景にある児童虐待について学ぶ。
8	カウンセリングの諸技法	カウンセリングの理論と技法を知り、話を聴くこと、語ることを体験してみる。
9	不登校	現在の不登校事情とその支援について考える。
10	いじめ	いじめのメカニズムと介入方法について考える。
11	非行・問題行動	非行・少年犯罪とはなにか、その背景、支援について考える。
12	保護者対応	保護者との実際のトラブルを想定して、対応の仕方を学ぶ。
13	教師のストレスと対処方法	教師自身のストレスマネジメントについて学ぶ。
14	まとめ	自分が教師になったとき、どのような教師でいたいのか、児童生徒とどう向き合うかを考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内で紹介する文献、自分の興味のあるトピックに関するニュースや本を積極的に読みましょう。そしてどんなテーマのものでも、自分の感想、自分の考えをもつよう心がけましょう。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

毎回、レジュメを配布します。

【参考書】

都築学（編）『やさしい心理学』ナカニシヤ出版

文部科学省『学習指導要領』

※その他、授業のなかで紹介いたします。

【成績評価の方法と基準】

授業中毎回コメントの提出を求めます。成績評価は学期末1回のレポート（60%）、授業時のコメント（40%）によりおこないます。コメントやレポートは、正解はあるような出題内容ではありません。自分で考えて自分の言葉で書いているかどうかを重視します。

【学生の意見等からの気づき】

スクールカウンセリングの現場の話題を取り入れます。

【その他の重要事項】

・「教育相談」は後期にも同じ内容で開講されます。ほかの授業とのバランスを考慮して、前期後期どちらで履修するかを決めてください。

・履修状況によっては、授業スケジュールが前後する可能性があります。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of the basic knowledge on educational counseling and organizational approach.

教育相談

沼田 あや子

配当年次／単位：1～4 年次／2 単位

開講時期：秋学期授業/Fall

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

教育相談活動の基礎知識、方法、対人援助のための姿勢を学ぶ

【到達目標】

教育相談を進めるにあたり、幼児、児童及び生徒の発達の状況に即しつつ、個々の心理的特質や教育的課題を適切にとらえ、支援するために必要な基礎的知識を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

授業は講義中心となります。ただし、教育相談においては意見の多様性が大切ですので、ディスカッションもおこないます。学校現場の具体的な事例をもとに、子どもの理解と対処方法を一緒に考えていきましょう。ゲストを招いての講義を1回おこなう予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業概要と成績評価方法についての説明。教師がカウンセリングについて学ぶ意味を考える。
2	スクールカウンセリングの実際：問題の見方、対策の立て方	具体的な相談事例をもとに、学校内外との連携について学ぶ。
3	幼児期、児童期の発達	身体、思考、対人関係の発達など、人間の発達の基礎知識について学ぶ。
4	思春期、青年期の発達	思春期、青年期の心理発達の諸理論を学び、現代の若者理解について考える。
5	発達障害とは	発達障害（自閉症スペクトラム、学習障害、ADHD）の基礎知識について学ぶ。
6	発達障害をもつ子への支援	発達障害をもつ児童生徒に対して、学校現場での具体的な支援について学ぶ。
7	精神障害と虐待	気分障害、身体表現性障害、統合失調症について学ぶ。また、PTSDの背景にある児童虐待について学ぶ。
8	カウンセリングの諸技法	カウンセリングの理論と技法を知り、話を聴くこと、語ることを体験してみる。
9	不登校	現在の不登校事情とその支援について考える。
10	いじめ	いじめのメカニズムと介入方法について考える。
11	非行・問題行動	非行・少年犯罪とはなにか、その背景、支援について考える。
12	保護者対応	保護者との実際のトラブルを想定して、対応の仕方を学ぶ。
13	教師のストレスと対処方法	教師自身のストレスマネジメントについて学ぶ。
14	まとめ	自分が教師になったとき、どのような教師でいたいのか、児童生徒とどう向き合うかを考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内で紹介する文献、自分の興味のあるトピックに関するニュースや本を積極的に読みましょう。そしてどんなテーマのものでも、自分の感想、自分の考えをもつよう心がけましょう。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

毎回、レジュメを配布します。

【参考書】

都築学（編）『やさしい心理学』ナカニシヤ出版

文部科学省『学習指導要領』

※その他、授業のなかで紹介します。

【成績評価の方法と基準】

授業中毎回コメントの提出を求めます。成績評価は学期末1回のレポート（60%）、授業時のコメント（40%）によりおこないます。コメントやレポートは、正解はあるような出題内容ではありません。自分で考えて自分の言葉で書いているかどうかを重視します。

【学生の意見等からの気づき】

スクールカウンセリングの現場の話題を取り入れます。

【その他の重要事項】

・「教育相談」は前期にも同じ内容で開講されます。ほかの授業とのバランスを考慮して、前期後期どちらで履修するかを決めてください。

・履修状況によっては、授業スケジュールが前後する可能性があります。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of the basic knowledge on educational counseling and organizational approach.

生徒・進路指導論

谷川 由佳

配当年次／単位：2～4 年次／2 単位

開講時期：春学期授業/Spring

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

生徒指導の意義と原理を理解し、生徒集団全体に対する指導、個別の課題を抱える生徒への指導のあり方や方法を理解できるようにする。また、進路指導（キャリア教育の基礎的な事項を含む）の意義と原理を理解し、生徒集団全体に対するガイダンス、個別の生徒に対するキャリア・カウンセリングのあり方や方法を理解できるようにする。

【到達目標】

生徒指導の理論と方法、進路指導（キャリア教育の基礎的な事項を含む）の理論と方法を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

本授業は講義形式となる。授業の初めに、前回の授業で提出されたりアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業の概要とガイダンス	授業の概要、成績評価等についての説明 学校体験を振り返る（これまで受けた生徒指導と進路指導）
2	生徒指導の意義と役割	教育課程における生徒指導の位置付け
3	生徒指導の方法	生徒指導の基本的な考え方、方法
4	生徒指導における集団指導	生活集団と学習集団
5	生徒指導における個別指導（今日的な生徒指導の課題）	生徒指導における今日的課題と期待される実践
6	生徒指導における個別指導（不登校等への対処）	「不登校」の現在と生徒指導の考え方
7	生徒指導における個別指導（暴力行為、いじめ等への対処）	いじめの問題にどう取り組むのか
8	進路指導の意義と役割	進路指導の基本的な考え方
9	進路指導の歴史と方法	進路指導の歴史の変遷、方法
10	キャリア教育の意義と役割	学校間接続・学校から仕事への移行とキャリア教育
11	進路指導・キャリア教育におけるガイダンスの役割と方法	現代の若者の進学と労働のあり方を踏まえた進路指導・キャリア教育
12	進路指導・キャリア教育におけるキャリア・カウンセリングの役割と方法	キャリア・カウンセリングの意義と内容
13	進路指導・キャリア教育におけるポートフォリオの活用	進路指導・キャリア教育における今日的課題と期待される実践
14	集団指導の組織的な推進体制	生徒・進路指導と学校外の機関との連携

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

指定しない。授業時にレジュメや資料を配布する。

【参考書】

折出健二編『生活指導：生き方についての生徒指導・進路指導とともに』学文社、2014年

林尚示・伊藤秀樹編『生徒指導・進路指導 第2版:理論と方法』学文社、2018年
『生徒指導提要』（文部科学省）

【成績評価の方法と基準】

提出物（リアクションペーパー等）40%、期末レポート60%で、総合的に判断して成績評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

前年度アンケート未実施科目につき、特になし。

【学生が準備すべき機器他】

本授業はオンライン授業となるため、授業資料の配布や課題提出は学習支援システムを通して行う。講義はZoomを用いた双方向オンライン型での実施を予定している。

学習支援システムやZoomを利用するための機器（パソコン等）があることが望ましい。

【その他の重要事項】

授業時にリアクションペーパー等の提出を求める。また、その内容は匿名化したうえで授業内で紹介することができる。

【Outline and objectives】

This course introduces the significance and principles of student guidance and career guidance & education. The former includes how to guide the whole student group and individual students with special educational needs. The latter includes how to provide career guidance & education for the whole student group, and career counseling for individual students.

生徒・進路指導論

谷川 由佳

配当年次／単位：2～4 年次／2 単位

開講時期：春学期授業/Spring

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

生徒指導の意義と原理を理解し、生徒集団全体に対する指導、個別の課題を抱える生徒への指導のあり方や方法を理解できるようにする。また、進路指導（キャリア教育の基礎的な事項を含む）の意義と原理を理解し、生徒集団全体に対するガイダンス、個別の生徒に対するキャリア・カウンセリングのあり方や方法を理解できるようにする。

【到達目標】

生徒指導の理論と方法、進路指導（キャリア教育の基礎的な事項を含む）の理論と方法を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

本授業は講義形式となる。授業の初めに、前回の授業で提出されたりアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業の概要とガイダンス	授業の概要、成績評価等についての説明 学校体験を振り返る（これまで受けた生徒指導と進路指導）
2	生徒指導の意義と役割	教育課程における生徒指導の位置付け
3	生徒指導の方法	生徒指導の基本的な考え方、方法
4	生徒指導における集団指導	生活集団と学習集団
5	生徒指導における個別指導（今日的な生徒指導の課題）	生徒指導における今日的課題と期待される実践
6	生徒指導における個別指導（不登校等への対処）	「不登校」の現在と生徒指導の考え方
7	生徒指導における個別指導（暴力行為、いじめ等への対処）	いじめの問題にどう取り組むのか
8	進路指導の意義と役割	進路指導の基本的な考え方
9	進路指導の歴史と方法	進路指導の歴史の変遷、方法
10	キャリア教育の意義と役割	学校間接続・学校から仕事への移行とキャリア教育
11	進路指導・キャリア教育におけるガイダンスの役割と方法	現代の若者の進学と労働のあり方を踏まえた進路指導・キャリア教育
12	進路指導・キャリア教育におけるキャリア・カウンセリングの役割と方法	キャリア・カウンセリングの意義と内容
13	進路指導・キャリア教育におけるポートフォリオの活用	進路指導・キャリア教育における今日的課題と期待される実践
14	集団指導の組織的な推進体制	生徒・進路指導と学校外の機関との連携

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

指定しない。授業時にレジュメや資料を配布する。

【参考書】

折出健二編『生活指導：生き方についての生徒指導・進路指導とともに』学文社、2014年

林尚示・伊藤秀樹編『生徒指導・進路指導 第2版:理論と方法』学文社、2018年
『生徒指導提要』（文部科学省）

【成績評価の方法と基準】

提出物（リアクションペーパー等）40%、期末レポート60%で、総合的に判断して成績評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

前年度アンケート未実施科目につき、特になし。

【学生が準備すべき機器他】

本授業はオンライン授業となるため、授業資料の配布や課題提出は学習支援システムを通して行う。講義はZoomを用いた双方向オンライン型での実施を予定している。
学習支援システムやZoomを利用するための機器（パソコン等）があることが望ましい。

【その他の重要事項】

授業時にリアクションペーパー等の提出を求める。また、その内容は匿名化したうえで授業内で紹介することがある。

【Outline and objectives】

This course introduces the significance and principles of student guidance and career guidance & education. The former includes how to guide the whole student group and individual students with special educational needs. The latter includes how to provide career guidance & education for the whole student group, and career counseling for individual students.

社会・地歴科教育法（1）

石出 法太

サブタイトル：社会・地歴科教育法
 配当年次／単位：2～4 年次／2 単位
 開講時期：春学期授業/Spring
 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会科学の歴史を学び、学習指導要領の目標や内容を理解しながら、地歴分野の教材や学習方法、評価の仕方の基本を学びます。その上で、学習指導案を作成して模擬授業（教育実践研究）を実施し、その振り返りを通して授業改善の視点を身につけます。

【到達目標】

中学校と高等学校における地理・歴史分野の学習指導要領の目標や内容を考え理解するとともに、教科指導と授業設計をするに当たって必要な知識や資質・能力を身につけます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

春学期は主に社会・地歴科教育の課題について歴史と現状をおさえながら学び、秋学期は具体的な授業テーマ（歴史が軸になります）をとりあげ、教科書と学習方法などを具体的に学びます。授業は講義と質疑、模擬授業、学生による発表です。状況により授業形態・計画の変更もあります。提出物・レポート・試験などについては適宜授業で講評・解説を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	春学期の授業予定の確認	1年間の授業計画の提示やアンケート、現在の社会と教育の問題をとりあげる。
2	社会・地歴科とは何か	社会・地歴科教育の現状と課題をとりあげる。
3	社会科前史	近代教育の出発と国定教科書をとりあげる。
4	戦争と教科書	戦争と教育とのつながりを考える。
5	敗戦と教育	敗戦がもたらしたものと戦後教育の出発点を考える。
6	社会科の成立	教育改革と社会科、学習指導要領の成立を考える。
7	戦後の社会科	日本の教育、社会科の変化を冷戦という視点から考える。
8	社会科のあゆみ	学習指導要領の変遷と教科書の変化をとりあげる。
9	教科書問題	「うれうべき教科書の問題」などを社会の変化から考える。
10	教科書裁判	家永教科書裁判と検定の問題をとりあげる。
11	社会科の課題	80年代以降の社会科につながる問題をとりあげる。
12	地歴科の課題	今日につながる歴史認識にかかわる問題をとりあげる。
13	授業案の作成	歴史の授業をどうつくっていくのか模擬授業も含め考える。
14	春学期のまとめとテストの実施	春学期のまとめと確認テストをおこない、夏季課題の説明をおこなう。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

社会科学、地歴科の教員には豊富な知識と様々な情報に精通していることが求められます。日々世の中の出来事に関心を持ち、読書や新聞の講読、テレビのニュースなどを見るように努めてください。日本や世界で今おこっている様々なことを説明できますか。鋭い歴史認識・現代認識を身につけてください。授業中に紹介した文献も読んでみましょう。本を読むことは教員の仕事のひとつともいえます。毎回提出のレポートや夏期課題が不十分な場合、再提出を求める場合もあります。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

中学歴史教科書『社会科中学の歴史 日本の歩みと世界の動き』帝国書院

【参考書】

授業中の文献を紹介、プリントを配布します。学習指導要領や中高の教科書は研究・検討の対象になります。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加姿勢（10%）、毎時間提出の感想・レポート提出など（30%）、試験（60%）を総合的に勘案して評価します。状況により変更もあります。

【学生の意見等からの気づき】

実践的な役に立つ授業を工夫していきます。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【その他の重要事項】

授業計画は受講者の人数や問題意識などを勘案して適宜変更することがあります。

【授業中に求められる学習活動】

毎授業時の講義は教員と学生との双方の対話が大切であるので、積極的な授業参加を期待します。

【授業中に求められる学習活動】

授業時の視聴覚学習やレポートには意欲的にとりくむ姿勢が求められます。

【Outline and objectives】

While studying the history of social studies and understanding the goals and contents of the course of study,

Learn the basics of teaching materials, learning methods and evaluation methods in the field of history. In addition, studies

We created a training instruction plan and implemented simulated lessons (educational practice research)

Through returning to learn perspective of improving classes.

社会・地歴科教育法 (2)

石出 法太

サブタイトル：社会・地歴科教育法
配当年次／単位：2～4 年次／2 単位
開講時期：秋学期授業/Fall
実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会科の歴史を学び、学習指導要領の目標と内容を理解しながら、地歴分野の教材や学習方法、評価の仕方の基本を学びます。その上で、学習指導案を作成して模擬授業（教育実践研究）を実施し、その振り返りを通して授業改善の視点を身につけます。

【到達目標】

中学校と高等学校における地理・歴史分野の学習指導要領の目標と内容を考え理解するとともに、教科指導と授業設計をするに当たって必要な知識や資質・能力を身につけます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

春学期は主に社会・地歴科教育の課題について歴史と現状をおさえながら学び、秋学期は具体的な授業テーマ（歴史が軸になります）をとりあげ、教科書と学習方法を具体的に学びます。授業は講義と質疑、模擬授業、学生による発表です。提出物・レポート・試験などは適宜授業で講評・解説を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	秋学期の授業予定の確認	夏季の課題の提出と後期授業の進め方についてのオリエンテーションをおこなう。
2	現代をどうとらえるか	社会・地歴科の授業につながる現在の世界と日本の出来事について考える。
3	学習指導案と授業	夏季課題の授業案と模擬授業を含め授業の検討を行なう。
4	授業研究 その1 日本とアジア	指導案の実例と検討をアジアからの視点でおこなう。
5	授業研究 その2 アジアと世界	指導案の実例と検討をアジアと世界の視点でおこなう。
6	授業研究 その3 民族問題	指導案の実例と検討を民族という視点からおこなう。
7	授業研究 その4 植民地支配	指導案の実例と検討を植民地支配をあげて世界と日本からおこなう。
8	授業研究 その5 第一次世界大戦	指導案の事例と検討を帝国主義という視点から考える。
9	授業研究 その6 民族運動	指導案の実例と検討をアジアの民族運動という視点からおこなう。
10	授業研究 その7 ファシズムの問題	指導案の実例と検討を現代的・政治的な視点からおこなう。
11	授業研究 その8 第二次世界大戦	指導案の実例と検討を戦争の加害と被害という視点からおこなう。
12	実践授業研究 その1 戦後史の模擬授業	指導案と模擬授業の検討を日本の敗戦と戦後の出発点から考える。
13	実践授業研究 その2 現代世界の模擬授業	指導案と模擬授業の検討を現在世界でおこっている出来事から考える。
14	秋学期のまとめと確認テスト	授業のふりかえりと確認テストをおこなう。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

社会科、地歴科の教員には豊富な知識と様々な情報に精通していることが求められます。日々世の中の出来事に関心を持ち、読書や新聞の講読、テレビのニュースなどを見るように努めてください。日本や世界で今おこっている様々なことを説明できますか。鋭い歴史認識・現代認識を身につけてください。授業中に紹介した文献も読んでみましょう。本を読むことは教員の仕事のひとつともいえます。毎回提出のレポートや夏期課題が不十分な場合、再提出を求める場合もあります。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

中学歴史教科書『社会科中学の歴史 日本の歩みと世界の動き』帝国書院

【参考書】

授業中の文献を紹介、プリントを配布します。学習指導要領や中高の教科書は研究・検討の対象になります。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加姿勢（10%）、毎時間提出の感想・レポート・学習指導案の提出（30%）、試験（60%）を総合的に勘案して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

実践的な役に立つ授業を工夫していきます。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【その他の重要事項】

授業計画は受講者の人数や問題意識などを勘案して適宜変更することがあります。

【授業中に求められる学習活動】

毎授業時の講義は教員と学生との双方の対話が大切であるので、積極的な授業参加を期待します。

【授業中に求められる学習活動】

授業時の視聴覚学習やレポートには意欲的にとりくむ姿勢が求められます。

【Outline and objectives】

While studying the history of social studies and understanding the goals and contents of the course of study,

Learn the basics of teaching materials, learning methods and evaluation methods in the field of history. In addition, studies

We created a training instruction plan and implemented simulated lessons (educational practice research)

Through returning to learn perspective of improving classes.

社会・公民科教育法（1）

松山 尚寿

サブタイトル：社会・公民科教育法

配当年次／単位：2～4 年次／2 単位

開講時期：春学期授業/Spring

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会・公民科の歴史、学習指導要領に示された目標や内容、教材研究や学習指導の方法などについての基本的な事項を理解するとともに、それらの知識・技能に基づいて、学習指導案の作成を行う。社会・公民科の歴史、学習指導要領に示された目標や内容、教材研究や学習指導の方法などについての基本的な知識・技能に基づいて、グループや個人で実践事例の研究、学習指導案の作成、模擬授業の実施と振り返りなどを行う。

【到達目標】

資質・能力の育成をめざし、社会・公民科における教育の目標や内容を理解し、学習指導理論を踏まえて学習指導案を作成することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

社会科教育の歴史と現状をまずおさえ、問題点と課題をさぐり、実践的な内容と方法の検討へと進めていく予定です。授業計画は授業の展開によって、若干の変更があります。授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	公民科と教師の力量形成
2	公民教育の意義と役割	公民的資質とは何か
3	公民教育の歴史	学習指導要領の変遷
4	学習指導要領と公民科	社会科、地理歴史科、公民科の全体構造
5	公民科の目標と内容	小学校・中学校・高等学校での展開
6	実践事例の検討(1)	中学校公民的分野
7	実践事例の検討(2)	高等学校公民科
8	学習指導案の書き方	授業設計のポイント
9	教材研究・教材開発の視点・方法	教材とは
10	学習指導の工夫	情報機器及び教材の効果的な活用
11	学習指導の工夫と実際	評価の考え方・進め方
12	学習指導案の検討(1)	中学校公民的分野
13	学習指導案の検討(2)	高等学校公民科
14	前期のまとめ	振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。次の授業への課題を時々出します。その課題にはしっかりと取り組んでください。また、社会科教師をめざす学生として、日常的に世界と日本の動向・問題点・課題に関心を持ち、報道や論説に注目するようにしてほしいと思います。世の中の重要な問題について、関心や自分の意見がないようでは困ります。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは指定せず、教材プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

文部科学省「中学校、高等学校学習指導要領 社会、公民」（最新版）
大月書店「未来の市民を育む『公共』の授業」杉浦真理他編

【成績評価の方法と基準】

平常点（25%）、宿題・予習課題（40%）、夏期・冬期のレポート課題（35%）によって総合評価します。

【学生の意見等からの気づき】

受講する学生の問題関心に配慮しながら、少しずつ要求水準を引き上げていきたいと思っています。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを利用します。また Google のアプリ「Classroom」を授業で活用します。

【その他の重要事項】

春学期・秋学期合わせての履修を推奨します。

【授業中に求められる学習活動】

None.

【Outline and objectives】

This class aims to gain basic understanding of the history of social studies and civic education, the goals and contents in the National Courses of Study, and teaching materials research and learning methods. Also, based on this knowledge and skills, the class further discusses how to develop lesson plans and actually design them. And then, the class also implements case studies of teaching practices, developments of lesson plans, and practices and reviews of simulated lessons with groups and individuals.

社会・公民科教育法（2）

松山 尚寿

サブタイトル：社会・公民科教育法
配当年次／単位：2～4 年次／2 単位
開講時期：秋学期授業/Fall
実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会・公民科の歴史、学習指導要領に示された目標や内容、教材研究や学習指導の方法などについての基本的な事項を理解するとともに、それらの知識・技能に基づいて、学習指導案の作成を行う。社会・公民科の歴史、学習指導要領に示された目標や内容、教材研究や学習指導の方法などについての基本的な知識・技能に基づいて、グループや個人で実践事例の研究、学習指導案の作成、模擬授業の実施と振り返りなどを行う。

【到達目標】

資質・能力の育成をめざし、社会・公民科における教育の目標や内容を理解し、学習指導理論を踏まえて学習指導案を作成することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

社会科教育の歴史と現状をまずおさえ、問題点と課題をさぐり、実践的な内容と方法の検討へと進めていく予定です。授業計画は授業の展開によって、若干の変更があります。授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	実践研究及び授業評価の視点	教材内容・授業技術の視点
2	実践研究	中学校公民的分野 グループによる提案と質疑
3	実践研究	高等学校「公民」 グループによる提案と質疑
4	実践研究	高等学校「倫理」 グループによる提案と質疑
5	実践研究	高等学校「政治・経済」 グループによる提案と質疑
6	模擬授業	中学校公民的分野 現代社会を捉える視点
7	模擬授業	中学校公民的分野 社会にみられる課題の解決
8	模擬授業	高等学校「公共」 人間と社会のあり方
9	模擬授業	高等学校「公共」 公共的な空間に見られる課題の解決
10	模擬授業	高等学校「倫理」 人間としてのあり方 生き方
11	模擬授業	高等学校「倫理」 現代の倫理的諸課題の解決
12	模擬授業	高等学校「政治・経済」 社会のあり方
13	模擬授業	高等学校「政治・経済」 社会に見られる課題の解決
14	授業のまとめ	振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
次の授業への課題を時々出します。その課題にはしっかりと取り組んでください。また、社会科教師をめざす学生として、日常的に世界と日本の動向・問題点・課題に関心をもち、報道や論説に注目するようにしてほしいと思います。世の中の重要な問題について、関心や自分の意見がないようでは困ります。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは指定せず、教材プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

文部科学省「中学校、高等学校学習指導要領 社会、公民」（最新版）
大月書店「未来の市民を育む『公共』の授業」杉浦真理他編

【成績評価の方法と基準】

平常点（25％）、宿題・予習課題（40％）、夏期・冬期のレポート課題（35％）によって総合評価します。

【学生の意見等からの気づき】

受講する学生の問題関心に配慮しながら、少しずつ要求水準を引き上げていきたいと思っています。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを利用します。また Google のアプリ「Classroom」を活用して授業を行います。

【その他の重要事項】

秋学期の授業は春学期の履修を前提に進めるので、春学期・秋学期合わせての履修を推奨します。

【授業中に求められる学習活動】

None.

【Outline and objectives】

This class aims to gain basic understanding of the history of social studies and civic education, the goals and contents in the National Courses of Study, and teaching materials research and learning methods. Also, based on this knowledge and skills, the class further discusses how to develop lesson plans and actually design them. And then, the class also implements case studies of teaching practices, developments of lesson plans, and practices and reviews of simulated lessons with groups and individuals.

情報科教育法 I

御園生 純

サブタイトル：情報科教育法

配当年次／単位：2～4 年次／2 単位

開講時期：春学期授業/Spring

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報及び情報技術を活用するための知識と技能を習得し、情報に関する科学的な見方や考え方や情報化の進む社会に積極的に参画することができる能力・態度である「情報活用能力」を養うための授業運営の理論および実践方法の習得を目指す。

【到達目標】

・教科「情報」設置の理念と社会的背景・高等学校全体の教育課程における位置づけを学ぶ。
・共通教科「情報」と専門教科「情報」の違い、および共通教科「情報」と他教科との関連等について理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

春学期は教科情報の成立過程のその目的や政策的な背景、授業運営の理論などを講義を中心に展開する。秋学期は年間計画、単元計画、授業指導案の作成を目標として受講者による発表や模擬授業を実施する。

また、単に情報科の教員免許取得にとどまらず、教職を目指すものとして必要不可欠な教育観、人権観、情報倫理（他者の作成した情報を活用する際のルール等）などについても、受講者同士の討議を中心に理解を深めています。

課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行います。各課題について受講生毎に講評します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	教科情報設置の経緯とその精神について	なぜ教科「情報」が設けられたのか、その背景と社会的状況について理解する。
2	ディスカッション：高校時代に受けた教科「情報」とはどんな授業だったか？	高校での情報の授業がその後の社会生活でどのように機能しているのかについて
3	普通科目「情報」と専門科目「情報」比較	他科目・高等学校の教育課程全体との関係の構造的な理解
4	普通教科情報の3つの観点と授業内容～情報活用能力とは	何を教えるのか？ そのためにどんな知識・技能が必要なのか？
5	問題解決と課題解決の授業の観念的・理論的理解	問題解決の理論と論理的思考について
6	「情報A」「情報B」から「情報の科学」への変更点	情報社会の変遷の現状とこれからの社会に求められる知識と技術について
7	「情報の科学」の内容と指導計画の概要	年間指導計画と科目目的との整合性について
8	「情報の科学」の授業例～情報A・Bとの相違点を中心に	学習指導要領改訂の目的の理解と情報テクノロジーの変遷について
9	「情報A」「情報C」から「社会と情報」への変更点	「情報の科学」「社会と情報」の各々の到達点と授業運営についての理解
10	「社会と情報」の内容と指導計画の概要	授業内容の理解と把握
11	「社会と情報」の授業例～情報Cとの相違点を中心に	社会における情報技術の活用の実態とその問題点について
12	「情報」教員に求められるスキル、学習指導案の考え方・書き方	授業設計のデザインと単元の組み立てについて
13	メディアリテラシーの概念と指導法	各種ソーシャルメディアや情報発信に必要なりテラシーについて。とりわけ情報の流用とそのルール・関係法規についての理解（小テスト実施）
14	Webとユーザビリティ、ユニバーサルデザインの理論、SNSの光と影	SNSなどの活用と実際の問題状況について

秋学期

回	テーマ	内容
---	-----	----

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします
学習指導要領・高等学校「情報編」をあらかじめ精読しておくこと

【テキスト（教科書）】

学習指導要領・高等学校「情報編」

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

■評価配分

平常点 40%

課題1 40%（年間指導計画・単元計画の作成等）

小テスト20%（個人情報の取り扱い・情報の引用・流用について）

【学生の意見等からの気づき】

ありません。

【学生が準備すべき機器他】

ありません

【その他の重要事項】

ありません

【Outline and objectives】

The course of Teaching Method of Information Sciences (Joho-ka Kyoiku-ho) is made up of the two classes, Teaching Method I and II. The objectives of Teaching Method I are mainly for students to learn the basic knowledges and skills on information and information technologies, and to understand the goals of the subject and its positioning in the Course of Study for high schools.

情報科教育法Ⅱ

御園生 純

サブタイトル：情報科教育法

配当年次／単位：2～4 年次／4 単位

開講時期：秋学期授業/Fall

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

- I. 教科「情報」の概要と意義
 - II. 情報活用の実践力・情報の科学的理解
 - III. 情報化社会に参画する態度
 - IV. 教科「情報」における学習指導
 - V. 教科「情報」のカリキュラム・指導計画作成
- 以上 5 つの項目について、以下授業の構成の内容で講義・実習をおこなう。

【到達目標】

- 1、実際に高校での授業運営が可能な実践的な教職能力の習得
- 2、授業指導案の作成能力の獲得
- 3、実際の教室運営と指導観の涵養

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

前期は教科情報の成立過程のその目的や政策的な背景、授業運営の理論などを講義を中心に展開する。後期は年間計画、単元計画、授業指導案の作成を目標として受講者による発表や模擬授業を実施する。

また、単に情報科の教員免許取得にとどまらず、教職を目指すものとして必要不可欠な教育観、人権観、などについても、受講者同士の討議を中心に理解を深めていきます。

課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行います。各課題について受講生毎に講評します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 15 回	情報社会に参画する態度 I～受益者・受信者として。	E コマースなどの消費者としての取り組み
第 16 回	情報社会に参画する態度 II～発信者として。	SNS などの発信者としての取り組みと問題。
第 17 回	メディアリテラシー、電子コミュニケーション	SNS などの活用と実際
第 18 回	情報と職業	IT 技術によって労働の形態がどのように変わっていくのか？
第 19 回	あたらしい労働専門性と労働のスタイル、電子決済や仮想通貨について	消費者教育としての情報教育
第 20 回	情報教育の理論～キーコンピテンシーとしての情報教育	あたらしい基礎リテラシーとしての情報教育
第 21 回	情報テクノロジーの進化と教職の変化	教職専門性と情報技術について
第 22 回	問題解決能力について	論理的思考と問題解決の手法
第 23 回	教科「情報」と「総合的な学習の時間」	教育課程全体における情報科の位置づけ
第 24 回	他教科との連携と協働、プレゼンテーションとディスカッション・コラボレーション	プレゼンテーションツールの利用方法について
第 25 回	情報教育における評価方法	授業評価（生徒の評価と授業の評価の関係について）
第 26 回	教師の自己点検と授業評価、学習環境の整備と保守	クラス全体を評価する～偏差値の重要性
第 27 回	「情報」の授業のイメージ作り	授業の入り口と出口～なにを習得させるのか？
第 28 回	学習計画の作成	年間指導計画の作成
秋学期		
回	テーマ	内容

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。
高校教科「情報」がどのような経緯で設置されたのか、目的とその歴史的経緯などについては web 等で調べておくこと。

【テキスト（教科書）】

高等学校学習指導要領「総則」編

高等学校学習指導要領「情報」編

【参考書】

授業中に指示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点 30%
課題（発表プレゼン含む） 40%
模擬授業 30%

【学生の意見等からの気づき】

理論だけでなく、実際に教壇に立った時に必要となる実践的な授業運営方法について模擬授業などを通じて学びます。

【Outline and objectives】

The aims of this lecture is basic knowledge as a teacher of subject information and acquisition of educational technology.

道徳教育指導論

石神 真悠子

配当年次／単位：2～4 年次／2 単位

開講時期：秋学期授業/Fall

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は道徳の本質を問い直し、そのうえで今後の道徳教育のあり方についての展望を与えることを目指すものである。道徳教育をめぐっては、道徳が「特別の教科」に変更されたことに伴い、そのあり方をめぐって議論が進められているが、そうした転換期にあって、「そもそも道徳とは何か?」「道徳教育は可能なのか?」「道徳教育はいかになされるべきか?」といった根本的な問いに向き合うことは不可欠であろう。本講義ではそうした原理的な問いに立ち返りつつ、今後の道徳教育のあり方を問うべく、道徳教育の歴史、現状、課題について概説する。そしてそのうえで優れた道徳教育の実践を紹介し、履修者自らが授業を構成していくための知識の修得を目指す。

【到達目標】

道徳の意義や原理等に基づき、学校における道徳教育の目標や内容を理解する。学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育及びその要となる道徳科における指導計画や指導方法を理解する。

- ①道徳教育の現状と課題について把握する。
- ②道徳の本質を説明できる。
- ③道徳教育の歴史について理解する。
- ④学習指導要領に示された道徳教育及び道徳科の目標及び主要内容を理解している。
- ⑤自ら「道徳」の授業を組み立てることができる。
- ⑥模擬授業の実施とそのふりかえりを通して、授業改善の視点を身につけている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

基本的には講義形式とするが、模擬授業やグループワーク等の機会を設ける。また、コメントシートの提出を必須とし、授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	道徳教育を学ぶ意義について	授業の目的や進め方、評価方法についてガイダンスを行い、道徳教育を学ぶ意義を検討する。
2	道徳教育の現状と課題－「道徳の教科化」とその学習評価	学習指導要領を踏まえて、道徳の教科化とその学習評価について検討する。
3	道徳教育の歴史	戦前・戦後の道徳教育を検討する。
4	心の教育について－学習指導要領における「心の教育」	学習指導要領を踏まえて、「心の教育」について検討する。
5	いのちの教育について－学習指導要領における「いのちの教育」	学習指導要領を踏まえて、「いのちの教育」について検討する。
6	人権教育について－学習指導要領における「人権教育」	学習指導要領を踏まえて、「人権教育」について検討する。
7	道徳性の発達理論	道徳性の発達理論を踏まえて、道徳性が発達するとはどのようなことかを検討する。
8	悪の体験と子どもの発達	悪の体験から子どもの発達、教育の限界点について検討する。
9	情報モラル	情報モラルについて確認したうえで、情報モラル教育について検討する。
10	シティズンシップ教育について	シティズンシップ教育と道徳教育の重なりとずれを検討する。
11	モラルジレンマ型の道徳教育	モラルジレンマ型の道徳教育について、その意義と課題を検討する。
12	「道徳」における指導案の書き方および発問の仕方について	指導案作成のポイントについて検討する。
13	模擬授業の実施および「道徳」の実践例の紹介	模擬授業を実施するとともに、「道徳」の実践例を紹介し、それらについて検討する。
14	全体のふりかえりとまとめ	本講義のふりかえりとまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日頃より道徳教育に関わる新聞記事や文献等に目を通し、「道徳」とは何か、「道徳を教育する」とはどういうことかについて考えを深める。

【テキスト（教科書）】

教員が適宜指定する。

【参考書】

井藤元編『ワークで学ぶ道徳教育』（ナカニシヤ出版、2016年）
中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領（最新版 文部科学省）
このほか、授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

毎回の授業におけるコメントシートおよび小テスト（60％）と達成度テスト（40％）の点数を合わせて総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【その他の重要事項】

授業の進め方は、履修者と相談したうえで、必要に応じて変更する場合がある。また、授業内容についても適宜変更する場合がある。

【Outline and objectives】

This class aims to understand the goals and contents of moral education at a school and further discusses moral education through whole school educational activities as well as curriculum and instruction of moral education. Details are to explore ① the current situation and issues of moral education, ② the essence of morality, ③ the history of moral education, ④ the goals and main contents of moral education in the National Courses of Study, ⑤ how to design lesson plans of moral education, and ⑥ the simulated lessons and their reflection.

道徳教育指導論

石神 真悠子

配当年次／単位：2～4 年次／2 単位

開講時期：春学期授業/Spring

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は道徳の本質を問い直し、そのうえで今後の道徳教育のあり方についての展望を与えることを目指すものである。道徳教育をめぐっては、道徳が「特別の教科」に変更されたことに伴い、そのあり方をめぐって議論が進められているが、そうした転換期にあって、「そもそも道徳とは何か?」「道徳教育は可能なのか?」「道徳教育はいかになされるべきか?」といった根本的な問いに向き合うことは不可欠であろう。本講義ではそうした原理的な問いに立ち返りつつ、今後の道徳教育のあり方を問うべく、道徳教育の歴史、現状、課題について概説する。そしてそのうえで優れた道徳教育の実践を紹介し、履修者自らが授業を構成していくための知識の修得を目指す。

【到達目標】

道徳の意義や原理等に基づき、学校における道徳教育の目標や内容を理解する。学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育及びその要となる道徳科における指導計画や指導方法を理解する。

- ①道徳教育の現状と課題について把握する。
- ②道徳の本質を説明できる。
- ③道徳教育の歴史について理解する。
- ④学習指導要領に示された道徳教育及び道徳科の目標及び主要内容を理解している。
- ⑤自ら「道徳」の授業を組み立てることができる。
- ⑥模擬授業の実施とそのふりかえりを通して、授業改善の視点を身につけている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

基本的には講義形式とするが、模擬授業やグループワーク等の機会を設ける。また、コメントシートの提出を必須とし、授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	道徳教育を学ぶ意義について	授業の目的や進め方、評価方法についてガイダンスを行い、道徳教育を学ぶ意義を検討する。
2	道徳教育の現状と課題－「道徳の教科化」とその学習評価	学習指導要領を踏まえて、道徳の教科化とその学習評価について検討する。
3	道徳教育の歴史	戦前・戦後の道徳教育を検討する。
4	心の教育について－学習指導要領における「心の教育」	学習指導要領を踏まえて、「心の教育」について検討する。
5	いのちの教育について－学習指導要領における「いのちの教育」	学習指導要領を踏まえて、「いのちの教育」について検討する。
6	人権教育について－学習指導要領における「人権教育」	学習指導要領を踏まえて、「人権教育」について検討する。
7	道徳性の発達理論	道徳性の発達理論を踏まえて、道徳性が発達するとはどのようなことかを検討する。
8	悪の体験と子どもの発達	悪の体験から子どもの発達、教育の限界点について検討する。
9	情報モラル	情報モラルについて確認したうえで、情報モラル教育について検討する。
10	シティズンシップ教育について	シティズンシップ教育と道徳教育の重なりとずれを検討する。
11	モラルジレンマ型の道徳教育	モラルジレンマ型の道徳教育について、その意義と課題を検討する。
12	「道徳」における指導案の書き方および発問の仕方について	指導案作成のポイントについて検討する。
13	模擬授業の実施および「道徳」の実践例の紹介	模擬授業を実施するとともに、「道徳」の実践例を紹介し、それらについて検討する。
14	全体のふりかえりとまとめ	本講義のふりかえりとまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日頃より道徳教育に関わる新聞記事や文献等に目を通し、「道徳」とは何は、「道徳を教育する」とはどういうことかについて考えを深める。

【テキスト（教科書）】

教員が適宜指定する。

【参考書】

井藤元編『ワークで学ぶ道徳教育』（ナカニシヤ出版、2016年）
中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領（最新版 文部科学省）
このほか、授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

毎回の授業におけるコメントシートおよび小テスト（60%）と達成度テスト（40%）の点数を合わせて総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【その他の重要事項】

授業の進め方は、履修者と相談したうえで、必要に応じて変更する場合がある。また授業の内容についても、適宜変更する場合がある。

【Outline and objectives】

This class aims to understand the goals and contents of moral education at a school and further discusses moral education through whole school educational activities as well as curriculum and instruction of moral education. Details are to explore ① the current situation and issues of moral education, ② the essence of morality, ③ the history of moral education, ④ the goals and main contents of moral education in the National Courses of Study, ⑤ how to design lesson plans of moral education, and ⑥ the simulated lessons and their reflection.

特別活動論

桐島 次郎

配当年次／単位：2～4 年次／2 単位

開講時期：秋学期授業/Fall

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学生が将来、学級担任、教科担任、分掌担任、部活顧問として、特別活動の各分野、即ち学級活動（ホームルーム活動）、生徒会活動、学校行事、部活動において、見通しをもって取り組む上で必要な視点、更には、家庭、地域住民や関係諸機関との連携の在り方も含めて必要となる知識や視点、特質についても理解する。また、その目標を達成するための指導法、企画力を、討議、グループワーク等を通して高める。

【到達目標】

特別活動は、学校における様々な構成の集団での活動を通して、課題の発見や解決を行い、よりよい集団や学校生活を目指して様々に行われる活動の総体である。学校教育全体における特別活動の意義を理解し、「人間関係形成」・「社会参画」・「自己実現」の三つの視点や「チームとしての学校」の視点を持つとともに、学年の違いによる活動の変化、各教科等との往還的な関連、地域住民や他校の教職員と連携した組織的な対応等の特別活動の特質を踏まえた指導に必要な知識や素養を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

本授業では、これからの特別活動のあり方を考える上で必要となる文献、実践等を紹介し、検討していく。毎回授業の最後に、各自の意見、論点をコメントペーパーにまとめ提出してもらう。授業の初めに、前回の授業で提出されたコメントペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	講義の進め方、評価の仕方等の説明
2	教育課程の中の特別活動	特別活動の教育課程における位置づけ、およびその指導の特徴について考える。
3	特別活動の歴史	特別活動の変遷をたどり、今日の特別活動へと引き継がれている内容について考える。
4	学習指導要領と特別活動	特別活動に求められる新たな視点、および各教科等との関連性について考える。
5	特別活動の目標と展開	特別活動の目標についての理解を深め、実践を展開する上で必要な観点について考える。
6	特別活動の評価と改善	特別活動にふさわしい評価のあり方、また改善のすすめ方について考える。
7	話し合い活動とその指導	対話と討論を通じた相互理解と合意形成にむけて、指導の課題を考える。
8	学級・ホームルーム活動	信頼関係に基づく学級づくり、仲間づくりの意義と方法について考える。
9	児童会・生徒会活動	参画と自治、協同性によって学校生活をより良いものへとつくり変えていくために必要な能力について考える。
10	学校行事	発見と共感、創造性によって運営される学校行事固有の魅力、特性について考える。
11	部活動	「文化」の共有をとおして仲間とつながり、その成果を地域社会へとひろげていく部活動の可能性について考える。
12	家庭・地域・関連機関と連携した特別活動（シティズンシップ教育）	ボランティア学習、社会への貢献的活動等を通じて育まれていく「市民性」の意味について考える。
13	家庭・地域・関係機関と連携した特別活動（キャリア教育）	学習の成果を社会の課題とつなぎ、自己の実現とよりよい集団の形成を達成していくための方法を考える。
14	まとめ：特別活動の課題と可能性	講義全体を振り返り、特別活動の展望と課題について考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業において配付する関連資料を次回までに読了する。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教員が適宜指定する。

【参考書】

中学校学習指導要領/特別活動編、高等学校学習指導要領/特別活動編（最新版 文部科学省）

【成績評価の方法と基準】

コメントペーパーと参加姿勢（60%）、課題レポートの内容（40%）

【学生の意見等からの気づき】

授業後に提出してもらったコメントペーパーのいくつかを毎回授業のはじめに紹介し、前回の授業の内容等に関する「気づき」について述べる。

【Outline and objectives】

This course introduces extra-curricular activities at school. In the field of extra-curricular activities, there are home room activities, student council activities, school events, etc. This course explains how the teacher guides students in these activities, and how to cooperate with students' families and related organizations in the regional community. In this lesson, discussions, group work and other active learning methods will be carried out.

特別活動論

桐島 次郎

配当年次／単位：2～4 年次／2 単位

開講時期：秋学期授業/Fall

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学生が将来、学級担任、教科担任、分掌担任、部活顧問として、特別活動の各分野、即ち学級活動（ホームルーム活動）、生徒会活動、学校行事、部活動において、見通しをもって取り組む上で必要な視点、更には、家庭、地域住民や関係諸機関との連携の在り方も含めて必要となる知識や視点、特質についても理解する。また、その目標を達成するための指導法、企画力を、討議、グループワーク等を通して高める。

【到達目標】

特別活動は、学校における様々な構成の集団での活動を通して、課題の発見や解決を行い、よりよい集団や学校生活を目指して様々に行われる活動の総体である。学校教育全体における特別活動の意義を理解し、「人間関係形成」・「社会参画」・「自己実現」の三つの視点や「チームとしての学校」の視点を持つとともに、学年の違いによる活動の変化、各教科等との往還的な関連、地域住民や他校の教職員と連携した組織的な対応等の特別活動の特質を踏まえた指導に必要な知識や素養を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

本授業では、これからの特別活動のあり方を考える上で必要となる文献、実践等を紹介し、検討していく。毎回授業の最後に、各自の意見、論点をコメントペーパーにまとめ提出してもらう。授業の初めに、前回の授業で提出されたコメントペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	講義の進め方、評価の仕方等の説明
2	教育課程の中の特別活動	特別活動の教育課程における位置づけ、およびその指導の特徴について考える。
3	特別活動の歴史	特別活動の変遷をたどり、今日の特別活動へと引き継がれている内容について考える。
4	学習指導要領と特別活動	特別活動に求められる新たな視点、および各教科等との関連性について考える。
5	特別活動の目標と展開	特別活動の目標についての理解を深め、実践を展開する上で必要な観点について考える。
6	特別活動の評価と改善	特別活動にふさわしい評価のあり方、また改善のすすめ方について考える。
7	話し合い活動とその指導	対話と討論を通じた相互理解と合意形成にむけて、指導の課題を考える。
8	学級・ホームルーム活動	信頼関係に基づく学級づくり、仲間づくりの意義と方法について考える。
9	児童会・生徒会活動	参画と自治、協同性によって学校生活をより良いものへとつくり変えていくために必要な能力について考える。
10	学校行事	発見と共感、創造性によって運営される学校行事固有の魅力、特性について考える。
11	部活動	「文化」の共有をとおして仲間とつながり、その成果を地域社会へとひろげていく部活動の可能性について考える。
12	家庭・地域・関連機関と連携した特別活動（シティズンシップ教育）	ボランティア学習、社会への貢献的活動等を通じて育まれていく「市民性」の意味について考える。
13	家庭・地域・関係機関と連携した特別活動（キャリア教育）	学習の成果を社会の課題とつなぎ、自己の実現とよりよい集団の形成を達成していくための方法を考える。
14	まとめ：特別活動の課題と可能性	講義全体を振り返り、特別活動の展望と課題について考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業において配付する関連資料を次回までに読了する。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教員が適宜指定する。

【参考書】

中学校学習指導要領/特別活動編、高等学校学習指導要領/特別活動編（最新版 文部科学省）

【成績評価の方法と基準】

コメントペーパーと参加姿勢（60%）、課題レポートの内容（40%）

【学生の意見等からの気づき】

授業後に提出してもらうコメントペーパーのいくつかを毎回授業のはじめに紹介し、前回の授業の内容等に関する「気づき」について述べる。

【Outline and objectives】

This course introduces extra-curricular activities at school. In the field of extra-curricular activities, there are home room activities, student council activities, school events, etc. This course explains how the teacher guides students in these activities, and how to cooperate with students' families and related organizations in the regional community. In this lesson, discussions, group work and other active learning methods will be carried out.

教育課程論

三浦 芳恵

配当年次／単位：2～4 年次／2 単位

開講時期：秋学期授業/Fall

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

カリキュラム研究及び学習指導要領の検討をもとに、教育課程の意義や編成の方法を考察するとともに、事例研究や指導計画の立案や評価を実践することを通して、カリキュラム・マネジメントの考え方・進め方について理解する。

【到達目標】

資質・能力の育成をめざした教育課程の意義や編成の方法及びカリキュラム・マネジメントの考え方・進め方を理解している。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

講義形式・リアクションペーパー提出あり

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	この授業の概要について説明をします。
2	カリキュラムとは	カリキュラムの概念について学びます。
3	教育内容の組織化	経験主義カリキュラムと系統主義カリキュラムなど、カリキュラムの組織化の種類について把握し、検討します。
4	カリキュラムデザインを支える学習理論	現行学習指導要領における学習理論の転換について
5	教育課程の意義と位置づけ	教育課程関連制度の基本的な枠組みについて学びます。
6	学習指導要領の変遷	学習指導要領の変遷について把握します。
7	学力論の系譜	「ゆとり教育」導入時の学力をめぐる議論を中心に、学力とは何かを検討します。
8	学習指導要領改訂の要点	現行の学習指導要領に関する分析を行います。
9	カリキュラム・マネジメント	カリキュラム・マネジメントの概念について、教育実践の事例から検討します。
10	社会に開かれた教育課程	高校の教育実践から、地域に開かれた教育課程づくりの意義について検討します。
11	教育課程と指導計画－教科・領域の横断	中学校の総合的な学習の時間に関する実践について検討します。
12	教育課程と指導計画－通時性と共時性	キャリア教育の実践から、長期的な教育計画について検討します。
13	カリキュラム評価	近年の教育課程評価の動向について、実際の事例から検討します。
14	授業のまとめ	この授業のまとめを行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回のテーマに関連するような文献（新聞・雑誌・専門書など）を読み、自分なりの関心を持つこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

指定しない。適宜資料を配布する。

【参考書】

文部科学省「中学校学習指導要領・高等学校学習指導要領」（最新版）
松尾知明『新版 教育課程・方法論－コンピテンシーを育てる学びのデザイン』学文社、2018 年。

【成績評価の方法と基準】

毎回のリアクションペーパー（60%）、授業内課題（40%）をもとに総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

グループワークの時間を有意義なものにできるよう、問いの立て方や受講者たちへの接し方を工夫したいと思います。

【Outline and objectives】

This class aims to discuss the significance of school curriculum and methods of their development based on the study of curriculum research and the National Courses of Study. Also, the class further examines and explores the ideas and implementations of the curriculum management through case studies, curriculum development, and their evaluation.

教育課程論

三浦 芳恵

配当年次／単位：2～4 年次／2 単位

開講時期：秋学期授業/Fall

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

カリキュラム研究及び学習指導要領の検討をもとに、教育課程の意義や編成の方法を考察するとともに、事例研究や指導計画の立案や評価を実践することを通して、カリキュラム・マネジメントの考え方・進め方について理解する。

【到達目標】

資質・能力の育成をめざした教育課程の意義や編成の方法及びカリキュラム・マネジメントの考え方・進め方を理解している。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

講義形式・リアクションペーパー提出あり

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	この授業の概要について説明をします。
2	カリキュラムとは	カリキュラムの概念について学びます。
3	教育内容の組織化	経験主義カリキュラムと系統主義カリキュラムなど、カリキュラムの組織化の種類について把握し、検討します。
4	カリキュラムデザインを支える学習理論	現行学習指導要領における学習理論の転換について
5	教育課程の意義と位置づけ	教育課程関連制度の基本的な枠組みについて学びます。
6	学習指導要領の変遷	学習指導要領の変遷について把握します。
7	学力論の系譜	「ゆとり教育」導入時の学力をめぐる議論を中心に、学力とは何かを検討します。
8	学習指導要領改訂の要点	現行の学習指導要領に関する分析を行います。
9	カリキュラム・マネジメント	カリキュラム・マネジメントの概念について、教育実践の事例から検討します。
10	社会に開かれた教育課程	高校の教育実践から、地域に開かれた教育課程づくりの意義について検討します。
11	教育課程と指導計画－教科・領域の横断	中学校の総合的な学習の時間に関する実践について検討します。
12	教育課程と指導計画－通時性と共時性	キャリア教育の実践から、長期的な教育計画について検討します。
13	カリキュラム評価	近年の教育課程評価の動向について、実際の事例から検討します。
14	授業のまとめ	この授業のまとめを行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回のテーマに関連するような文献（新聞・雑誌・専門書など）を読み、自分なりの関心を持つこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

指定しない。適宜資料を配布する。

【参考書】

文部科学省「中学校学習指導要領・高等学校学習指導要領」（最新版）
松尾知明『新版 教育課程・方法論－コンピテンシーを育てる学びのデザイン』学文社、2018 年。

【成績評価の方法と基準】

毎回のリアクションペーパー（60%）、授業内課題（40%）をもとに総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

グループワークの時間を有意義なものにできるよう、問いの立て方や受講者たちへの接し方を工夫したいと思います。

【Outline and objectives】

This class aims to discuss the significance of school curriculum and methods of their development based on the study of curriculum research and the National Courses of Study. Also, the class further examines and explores the ideas and implementations of the curriculum management through case studies, curriculum development, and their evaluation.

教育方法論

酒井 英光

配当年次／単位：2～4 年次／2 単位

開講時期：春学期授業/Spring

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義では、教育の方法及び技術を学ぶ。(情報機器及び教材の活用を含む)特に、「授業」とは何か、「授業」はいかにあるべきか、「授業」をいかに準備し、実践するかということに重点を置く。

【到達目標】

実際に授業を準備し、イメージ豊かに組み立て・展開する力をつけ、指導案の形で表現し、実際に授業をおこなう能力を身につけることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

授業は当面の間、「学習支援システム」によるオンラインによって行なう。「双方向の動画配信型」の授業ではなく、毎回教材ファイルを配信する「資料配信型」の授業を行なう。場合によっては、動画を配信する場合もあるが、基本的にはワードや PDF の教材ファイルを配布する。教材ファイルは、時間割り通り、授業日の午前中には、「学習支援システム」の「教材」のところに掲示する。その日の授業の進め方は「本日の授業ガイダンス」ファイルで指示する。質疑応答・感想等については、「授業内掲示板」に「トピック」を設けて利用する。投稿に対しては、できるだけ速やかに応答する予定である。(自宅外にいる場合は難しいが、2日間ほどは、短くとも応答するつもりである。)「授業計画」を含むシラバスの変更がある場合、その詳細は「学習支援システム」のお知らせや教材のところにファイルを載せるのを見てほしい。

この講義では、いくつかの授業例を紹介し、分析・評価をしてゆく。その中で授業づくりの段取りや技術、教材の活用方法等についても説明する。板書の要領、プリントの作成などについても話すつもりである。授業例としては、受講生の取得希望免許科目と講師の経験的制約のため、公民や地歴、社会科学系の授業の紹介が多くなる。情報科のみ、福祉科のみ、あるいは保健体育科の免許を取得しようとする諸君には、最低でも一回はそれぞれの教科の授業事例を取りあげるので、許容していただきたい。

紹介した授業例に対しては2回ほど小レポートによって批評を書いていただく予定である。(当日1本だけ書いていただく場合もありうる。)

最終レポート=大レポートの主要部分は1時間分の指導案である。設定されたテーマに沿って1時間分の指導計画を構想して書いていただく。

教室授業が可能になった場合は、授業計画の相当の変更がありうる。(情報の授業紹介は、これまでゲストに来ていただいで、アクティブラーニング形式で実施していた。また、福祉の授業例も優れた模擬授業のビデオを利用していた。教室での対面授業が可能となれば、何とか組み込みたいと思っているが、対面授業ができない場合はいずれの実施も困難となる。)

社会科学系の科目はいうまでもなく、福祉・保健・健康・情報にかかわる問題も、世界の動き、政治・経済・文化等と密接なかかわりを持っている。教員がそのような世界の動向に関心を持ち、相当の理解を持っていることは、知的な指導者として教壇に立つための前提であると私は考える。このような準備なしでは、いずれの科目においても生徒が興味を持ち、生徒に説得力のある授業をすることは難しいと思う。そのため、この講義の受講生には現代の社会の動きにより関心を持っていただくために、何回かは講義の中で時事問題を取りあげ、「時事問題の小試験」を実施し、現代の社会にかかわる著作も紹介していきたいと考えている。社会科学系の免許を取ろうとする諸君はもちろんのことだが、情報科のみ、福祉科のみ、あるいは保健体育科の免許を取得しようとする諸君にも、現代の日本や世界に関する幅広い知識と関心を持っていただきたいからである。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	講義の予定、最終レポート（大レポート）のサンプル紹介と説明。時事問題の小試験紹介と解答・解説。
2	授業実践例1と授業論（授業評価の視点その1）	「健康・保健」の授業紹介、分析。授業論として、授業評価の視点その1。「事実」について。
3	授業実践例2と授業論（授業評価の視点その2）	「高校世界史」授業紹介、分析。授業論として、授業評価の視点その2。「良い授業」の条件等。
4	授業実践例3と授業論（授業評価と授業準備について）	「中学地理的分野」授業紹介、分析。授業評価と授業準備について。

5	授業実践例4の紹介・分析と授業論（授業の諸類型とその特徴：「講義」）	「健康・保健」の授業紹介、分析。その2。授業論として、授業の諸類型とその特徴。とりわけ講義のあり方等について考える。
6	授業実践例5と「福祉」科の授業論	「福祉」科授業の紹介、分析。「福祉」科授業の目標等。(教室授業ができない場合、プライバシー保護の観点から他の授業例に切り替える。現代社会論として、後半の講義に振り替える可能性もある。)
7	授業実践例6と授業論（授業の方法「問答学習」）	「高校日本史または中学歴史的分野の授業」の紹介、分析。授業の類型としては「問答学習」を考える。
8	授業実践例7と「情報」科の授業論（アクティブラーニングについて）	教室授業が可能であれば、ゲストによる「情報」の授業紹介と討論。「情報」の授業とアクティブラーニングの目的。(できない場合は他の授業紹介で代替する。)
9	第1回「時事問題小試験」と現代社会論	第1回「時事問題小試験」実施。解答・解説し、世界の動きについて考える。
10	授業実践例8と授業準備の手順	歴史教育の実践例を紹介し、一時間の授業をどう準備するのか、解説する。
11	授業実践例9と指導案の書き方	実践例紹介しながら、授業の構成、指導案の書き方とチェックすべき視点などについて解説する。
12	授業実践例10（情報または討論の授業）の紹介と分析	教室授業で、これまでの映像教材が紹介できない場合、討論授業を紹介して分析する。
13	授業実践例11（情報の授業）例紹介	メディアリテラシーの授業を紹介し、分析する。
14	第2回「時事問題小試験」最終レポート=大レポート提出	第2回「時事問題小試験」。解答・解説し、と世界の動きについて若干の説明をする。最終レポート「=大レポート提出。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講生は、免許を取得する教科について、深く広く学習すること。各種新聞をできるだけ毎日読み、インターネットやテレビのニュースなどを視聴すること。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

佐藤学『教育の方法』2010年刊 放送大学叢書 左右社 ¥1524(税別)

【参考書】

文部省「中学校学習指導要領」、「高等学校学習指導要領」
 『新版 社会・地歴・公民の教育』大森正・石渡延男編著 2009年 梓出版刊
 『よい授業とは何か』川田龍哉著 2019年 学文社刊

【成績評価の方法と基準】

「指導案」を主とする最終レポート=大レポートが最も大きな評価の材料となる。70%。「時事問題小試験」は2回実施してで10%程の評価材料となる。何回かはその授業内に感想・批評を書いていただくこともあるが、紹介した授業に関する小レポートもまとめて2回ほどは書いていただく(合計で10%程)。

オンライン授業が最後まで続く場合、授業内掲示板への投稿回数と内容、既読率も授業への参加の目安として重視する。(評価のウェイトとしては10%程)。

第一回目の授業で、「学習支援システム」の「教材」のところに、「時事問題小試験の紹介」を載せておくのでやってみてほしい。いずれの問題もインターネットなどで調べれば一瞬にして答えの分かるものだが、まずは何も見ないで解いてみてほしい。教室で小試験が実施される場合、インターネットなど、一切の情報は参照不可となるためである。

【学生の意見等からの気づき】

以前よりも大幅に課題を縮小した。現在の課題は適量の模様である。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン
 インターネット受信能力
 オフィスのワードとエクセルのソフト

【Outline and objectives】

This class aims to examine basic concepts, ideas and application of education methods and techniques. Also, on the basis of this knowledge and skills, the class further discusses how to develop lesson plans to enhance competencies and actually design them.

教育方法論

酒井 英光

配当年次／単位：2～4 年次／2 単位

開講時期：秋学期授業/Fall

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義では、教育の方法及び技術を学ぶ。(情報機器及び教材の活用を含む)特に、「授業」とは何か、「授業」はいかにあるべきか、「授業」をいかに準備し、実践するかということに重点を置く。

【到達目標】

実際に授業を準備し、イメージ豊かに組み立て・展開する力をつけ、指導案の形で表現し、実際に授業をおこなう能力を身につけることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

授業は当面の間、「学習支援システム」によるオンラインによって行なう。「双方向の動画配信型」の授業ではなく、毎回教材ファイルを配信する「資料配信型」の授業を行なう。場合によっては、動画を配信する場合もあるが、基本的にはワードや PDF の教材ファイルを配布する。教材ファイルは、時間割り通り、授業日の午前中には、「学習支援システム」の「教材」のところに掲示する。その日の授業の進め方は「本日の授業ガイダンス」ファイルで指示する。質疑応答・感想等については、「授業内掲示板」に「トピック」を設けて利用する。投稿に対しては、できるだけ速やかに応答する予定である。(自宅外にいる場合は難しいが、2日間ほどは、短くとも応答するつもりである。)「授業計画」を含むシラバスの変更がある場合、その詳細は「学習支援システム」のお知らせや教材のところにファイルを載せるのを見てほしい。

この講義では、いくつかの授業例を紹介し、分析・評価をしてゆく。その中で授業づくりの段取りや技術、教材の活用方法等についても説明する。板書の要領、プリントの作成などについても話すつもりである。授業例としては、受講生の取得希望免許科目と講師の経験的制約のため、公民や地歴、社会科学系の授業の紹介が多くなる。情報科のみ、福祉科のみ、あるいは保健体育科の免許を取得しようとする諸君には、最低でも一回はそれぞれの教科の授業事例を取りあげるので、許容していただきたい。

紹介した授業例に対しては2回ほど小レポートによって批評を書いていただく予定である。(当日1本だけ書いていただく場合もありうる。)

最終レポート＝大レポートの主要部分は1時間分の指導案である。設定されたテーマに沿って1時間分の指導計画を構想して書いていただく。

教室授業が可能になった場合は、授業計画の相当の変更がありうる。(情報の授業紹介は、これまでゲストに来ていただいて、アクティブラーニング形式で実施していた。また、福祉の授業例も優れた模擬授業のビデオを利用していた。教室での対面授業が可能となれば、何とか組み込みたいと思っているが、対面授業ができない場合はいずれの実施も困難となる。)

社会科学系の科目はいうまでもなく、福祉・保健・健康・情報にかかわる問題も、世界の動き、政治・経済・文化等と密接なかかわりを持っている。教員がそのような世界の動向に関心を持ち、相当の理解を持っていることは、知的な指導者として教壇に立つための前提であると私は考える。このような準備なしでは、いずれの科目においても生徒が興味を持ち、生徒に説得力のある授業をすることは難しいと思う。そのため、この講義の受講生には現代の社会の動きにより関心を持っていただくために、何回かは講義の中で時事問題を取りあげ、「時事問題の小試験」を実施し、現代の社会にかかわる著作も紹介していきたいと考えている。社会科学系の免許を取ろうとする諸君はもちろんのことだが、情報科のみ、福祉科のみ、あるいは保健体育科の免許を取得しようとする諸君にも、現代の日本や世界に関する幅広い知識と関心を持っていただきたいからである。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	講義の予定、最終レポート（大レポート）のサンプル紹介と説明。時事問題の小試験紹介と解答・解説。
2	授業実践例1と授業論（授業評価の視点その1）	「健康・保健」の授業紹介、分析。授業論として、授業評価の視点その1。「事実」について。
3	授業実践例2と授業論（授業評価の視点その2）	「高校世界史」授業紹介、分析。授業論として、授業評価の視点その2。「良い授業」の条件等。
4	授業実践例3と授業論（授業評価と授業準備について）	「中学地理的分野」授業紹介、分析。授業評価と授業準備について。

5	授業実践例4の紹介・分析と授業論（授業の諸類型とその特徴：「講義」）	「健康・保健」の授業紹介、分析。その2。授業論として、授業の諸類型とその特徴。とりわけ講義のあり方等について考える。
6	授業実践例5と「福祉」科の授業論	「福祉」科授業の紹介、分析。「福祉」科授業の目標等。(教室授業ができない場合、プライバシー保護の観点から他の授業例に切り替える。現代社会論として、後半の講義に振り替える可能性もある。)
7	授業実践例6と授業論（授業の方法「問答学習」）	「高校日本史または中学歴史的分野の授業」の紹介、分析。授業の類型としては「問答学習」を考える。
8	授業実践例7と「情報」科の授業論（アクティブラーニングについて）	教室授業が可能であれば、ゲストによる「情報」の授業紹介と討論。「情報」の授業とアクティブラーニングの目的。(できない場合は他の授業紹介で代替する。)
9	第1回「時事問題小試験」と現代社会論	第1回「時事問題小試験」実施。解答・解説し、世界の動きについて考える。
10	授業実践例8と授業準備の手順	歴史教育の実践例を紹介し、一時間の授業をどう準備するのか、解説する。
11	授業実践例9と指導案の書き方	実践例紹介しながら、授業の構成、指導案の書き方とチェックすべき視点などについて解説する。
12	授業実践例10（情報または討論の授業）の紹介と分析	教室授業で、これまでの映像教材が紹介できない場合、討論授業を紹介して分析する。
13	授業実践例11（情報の授業）例紹介	メディアリテラシーの授業を紹介し、分析する。
14	第2回「時事問題小試験」最終レポート＝大レポート提出	第2回「時事問題小試験」。解答・解説し、と世界の動きについて若干の説明をする。最終レポート「＝大レポート提出。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講生は、免許を取得する教科について、深く広く学習すること。各種新聞をできるだけ毎日読み、インターネットやテレビのニュースなどを視聴すること。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

佐藤学『教育の方法』2010年刊 放送大学叢書 左右社 ¥1524(税別)

【参考書】

文部省「中学校学習指導要領」、「高等学校学習指導要領」
 『新版 社会・地歴・公民の教育』大森正・石渡延男編著 2009年 梓出版刊
 『よい授業とは何か』川田龍哉著 2019年 学文社刊

【成績評価の方法と基準】

「指導案」を主とする最終レポート＝大レポートが最も大きな評価の材料となる。70%。「時事問題小試験」は2回実施してで10%程の評価材料となる。何回かはその授業内に感想・批評を書いていただくこともあるが、紹介した授業に関する小レポートもまとめて2回ほどは書いていただく(合計で10%程)。

オンライン授業が最後まで続く場合、授業内掲示板への投稿回数と内容、既読率も授業への参加の目安として重視する。(評価のウェイトとしては10%程)。

第一回目の授業で、「学習支援システム」の「教材」のところに、「時事問題小試験の紹介」を載せておくのでやってみてほしい。いずれの問題もインターネットなどで調べれば一瞬にして答えの分かるものだが、まずは何も見ないで解いてみてほしい。教室で小試験が実施される場合、インターネットなど、一切の情報は参照不可となるためである。

【学生の意見等からの気づき】

以前よりも大幅に課題を縮小した。現在の課題は適量の模様である。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン
 インターネット受信能力
 オフィスのワードとエクセルのソフト

【Outline and objectives】

This class aims to examine basic concepts, ideas and application of education methods and techniques. Also, on the basis of this knowledge and skills, the class further discusses how to develop lesson plans to enhance competencies and actually design them.

特別な教育的ニーズの理解と支援

山下 洋児

配当年次／単位：1～4 年次／2 単位

開講時期：春学期授業/Spring

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

発達障害や軽度知的障害をはじめとするさまざまな障害、外国籍あるいは家庭養育基盤が弱いことなどにより、特別な支援を必要としている幼児、児童、生徒が、通常の学級に在籍し、授業活動にも参加している実感を持ち、また、子どもたちが生きる力を身に付けていくための、現状の把握、支援の方法を学ぶ。

【到達目標】

特別な支援を必要とする幼児、児童及び生徒の障害の特性、心身の発達を理解する。特に、様々な障害の学習上および生活上の困難に関する基礎的な知識を身に付け、当該子どもの心身の発達、心理的特性、学習の過程を理解し、インクルーシブ教育を含めた特別支援教育の制度の理念や仕組みを理解する。

特別な支援を必要とする幼児、児童及び生徒の教育課程及び支援の方法を理解する。特に、支援方法の具体例を理解し、通級指導と自立活動のカリキュラム上の位置づけを理解し、個別の指導計画や教育支援計画を作成する意義と方法を理解し、コーディネーターや関係機関、家庭と連携した支援体制の構築の意義を理解している。

障害はないが特別な教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒の把握や支援を理解する。特に、母国語や貧困の問題等により本件に該当する子どもたちの学習上、生活上の困難とその対応方法を理解し、組織的な対応の必要性を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

特別な支援を必要とする幼児・児童・生徒の生きづらさに気付き、どのような理解、支援を行えばよいのか、考えを深められるよう、具体的な事例も伝え、授業を行う。資料の読み取りが中心となるが、毎回のリアクションペーパーの内容を適宜取り入れ、他の受講生がどのように考えているのかが参考となるようにする。リアクションペーパーは毎時間提出する。必要に応じてグループディスカッションも行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	本講義の目的、授業の進め方、評価の仕方。受講者自身の「特別な支援を必要とする児童・生徒」に関わる学校体験を振り返る。
第 2 回	特別支援教育の概要	特別支援教育の概要と、教師として特別な支援を必要とする子どもたちをどのように理解するかということについて学ぶ。
第 3 回	障害特性とはなにか	発達障害の「障害特性・認知特性」について、事例に沿って学ぶ。
第 4 回	自閉スペクトラム症 (ASD) の子どもの理解とその支援	自閉スペクトラム症について概要と具体例を学ぶ。
第 5 回	注意欠如多動症 (ADHD) の子どもの理解とその支援	注意欠如多動症について概要と具体例を学ぶ。
第 6 回	学習障害 (LD) の子どもの理解とその支援	学習障害について概要と具体例を学ぶ。
第 7 回	知的障害の子どもの理解とその支援	知的障害について概要と具体例を学ぶ。
第 8 回	肢体不自由・病弱の子どもの理解とその支援	肢体不自由・病弱教育について概要と具体例を学ぶ。
第 9 回	家庭基盤の弱い子どもの理解とその支援	不適切な養育状況にある子ども、貧困状況にある子ども等の概要と具体例について学ぶ。
第 10 回	多様性とインクルーシブ教育	障害だけでなく、特別な支援が必要な子どもについて知り、インクルーシブ教育、合理的配慮について学ぶ。
第 11 回	個別の指導計画、教育支援計画	個別の指導計画、教育支援計画の意義と作成について学ぶ。
第 12 回	多様な関係・連携と支援	学校内における連携、学校外の関係諸機関との連携について学ぶ。
第 13 回	介護等体験の意義と留意点	介護体験の意義と留意点について学び、特別支援学校の教育活動のイメージをもつ。

第 14 回 まとめ：特別支援教育の今後の展望 特別支援教育の今後の展望について学び、自身が教員になった際のイメージをもつ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業は、1 回ずつが単独で終わるのでなく、他の回とも関連し合っているので、授業資料を事前・事後に読んで読むこと。また、日常的に、特別支援教育に関わるニュースやテレビ番組等に意識を向けておくこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書は使用しない。毎回資料を配布する予定。配布資料は、その回の授業だけでなく、他の回の授業、期末レポート等に必要になるので、整理して保存すること。

【参考書】

・中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領（最新版 文部科学省）
・戸田竜也「学級担任・特別支援教育コーディネーターのための『特別な教育的ニーズ』をもつ子どもの支援ガイド」明治図書、2015 年
その他、適宜授業で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（毎時間の理解を示すリアクションペーパー等）70 % + 最終レポート 30 %

【学生の意見等からの気づき】

公立中学校教員として勤務した経験からのエピソード、映像などを使用して行った授業が分かりやすかったという学生からの意見を参考にし、引き続き分かりやすい授業改善に取り組む。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

公立中学校特別支援学級教員の経験を活かし、特別支援教育に関わる今日の課題についての授業を行う。

【Outline and objectives】

Support and Understand for Special Educational Needs, concretely developmental disorders, mild mental retardation, ethnic minority, poverty, child abuse and so on.

特別な教育的ニーズの理解と支援

山下 洋児

配当年次／単位：1～4 年次／2 単位

開講時期：秋学期授業/Fall

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

発達障害や軽度知的障害をはじめとするさまざまな障害、外国籍あるいは家庭養育基盤が弱いことなどにより、特別な支援を必要としている幼児、児童、生徒が、通常の学級に在籍し、授業活動にも参加している実感を持ち、また、子どもたちが生きる力を身に付けていくための、現状の把握、支援の方法を学ぶ。

【到達目標】

特別な支援を必要とする幼児、児童及び生徒の障害の特性、心身の発達を理解する。特に、様々な障害の学習上および生活上の困難に関する基礎的な知識を身に付け、当該の子どもの心身の発達、心理的特性、学習の過程を理解し、インクルーシブ教育を含めた特別支援教育の制度の理念や仕組みを理解する。

特別な支援を必要とする幼児、児童及び生徒の教育課程及び支援の方法を理解する。特に、支援方法の具体例を理解し、通級指導と自立活動のカリキュラム上の位置づけを理解し、個別の指導計画や教育支援計画を作成する意義と方法を理解し、コーディネーターや関係機関、家庭と連携した支援体制の構築の意義を理解している。

障害はないが特別な教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒の把握や支援を理解する。特に、母国語や貧困の問題等により本件に該当する子どもたちの学習上、生活上の困難とその対応方法を理解し、組織的な対応の必要性を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

特別な支援を必要とする幼児・児童・生徒の生きづらさに気付き、どのような理解、支援を行えばよいのか、考えを深められるよう、具体的な事例も伝え、授業を行う。資料の読み取りが中心となるが、毎回のリアクションペーパーの内容を適宜取り入れ、他の受講生がどのように考えているのかが参考となるようにする。リアクションペーパーは毎時間提出する。必要に応じてグループディスカッションも行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	本講義の目的、授業の進め方、評価の仕方。受講者自身の「特別な支援を必要とする児童・生徒」に関わる学校体験を振り返る。
第 2 回	特別支援教育の概要	特別支援教育の概要と、教師として特別な支援を必要とする子どもたちをどのように理解するかということについて学ぶ。
第 3 回	障害特性とはなにか	発達障害の「障害特性・認知特性」について、事例に沿って学ぶ。
第 4 回	自閉スペクトラム症 (ASD) の子どもの理解とその支援	自閉スペクトラム症について概要と具体例を学ぶ。
第 5 回	注意欠如多動症 (ADHD) の子どもの理解とその支援	注意欠如多動症について概要と具体例を学ぶ。
第 6 回	学習障害 (LD) の子どもの理解とその支援	学習障害について概要と具体例を学ぶ。
第 7 回	知的障害の子どもの理解とその支援	知的障害について概要と具体例を学ぶ。
第 8 回	肢体不自由・病弱の子どもの理解とその支援	肢体不自由・病弱教育について概要と具体例を学ぶ。
第 9 回	家庭基盤の弱い子どもの理解とその支援	不適切な養育状況にある子ども、貧困状況にある子ども等の概要と具体例について学ぶ。
第 10 回	多様性とインクルーシブ教育	障害だけでなく、特別な支援が必要な子どもについて知り、インクルーシブ教育、合理的配慮について学ぶ。
第 11 回	個別の指導計画、教育支援計画	個別の指導計画、教育支援計画の意義と作成について学ぶ。
第 12 回	多様な関係・連携と支援	学校内における連携、学校外の関係諸機関との連携について学ぶ。
第 13 回	介護等体験の意義と留意点	介護体験の意義と留意点について学び、特別支援学校の教育活動のイメージをもつ。

第 14 回 まとめ：特別支援教育の今後の展望 特別支援教育の今後の展望について学び、自身が教員になった際のイメージをもつ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業は、1 回ずつが単独で終わるのでなく、他の回とも関連し合っているので、授業資料を事前・事後に読んで読むこと。また、日常的に、特別支援教育に関わるニュースやテレビ番組等に意識を向けておくこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書は使用しない。毎回資料を配布する予定。配布資料は、その回の授業だけでなく、他の回の授業、期末レポート等に必要になるので、整理して保存すること。

【参考書】

・中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領（最新版 文部科学省）
・戸田竜也「学級担任・特別支援教育コーディネーターのための『特別な教育的ニーズ』をもつ子どもの支援ガイド」明治図書、2015 年
その他、適宜授業で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（毎時間の理解を示すリアクションペーパー等）70 % + 最終レポート 30 %

【学生の意見等からの気づき】

公立中学校教員として勤務した経験からのエピソード、映像などを使用して行った授業が分かりやすかったという学生からの意見を参考にし、引き続き分かりやすい授業改善に取り組む。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

公立中学校特別支援学級教員の経験を活かし、特別支援教育に関わる今日の課題についての授業を行う。

【Outline and objectives】

Support and Understand for Special Educational Needs, concretely developmental disorders, mild mental retardation, ethnic minority, poverty, child abuse and so on.

総合的な学習の時間の指導法

本山 明

配当年次／単位：2～4 年次／2 単位

開講時期：春学期授業/Spring

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

総合的な学習の時間の意義と原理、特に学校ごとに目標や内を定める際の考え方を理解する。総合的な学習の時間の指導計画作成の考え方、特に探求的な学習の基礎的な理論や対話を中心とした学習の具体的方法、および他教科との連携の方法を理解し、実際に指導計画が立てられるようになる。総合的な学習の時間の指導と評価の考え方および実践上の留意点を理解できる。

【到達目標】

探求的な見方・考え方をし、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を育む「総合的な学習の時間」の指導計画の作成および具体的な指導の仕方、学習活動の評価に関する知識・技能を身につける。特に、教科ごとに育まれる見方・考え方を活用し、広範な事象を多様な角度から俯瞰してとらえ、実社会・実生活の課題を探究する学びを実現する授業づくりに必要な基礎的力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

「総合的な学習の時間」な学習指導理論を理解し、学習指導案の内容を子どもの認識や思考、学力などの実態に沿ったものに作成できるようにする。また模擬授業の実施と振り返りを通して授業改善の視点を身につける。「総合的な学習の時間」における実践研究の動向を紹介し、グループワーク・問題解決学習など主体的・対話的で深い学びの授業設計の向上に取り組めるようにする。授業内に行ったレポート等のなかでいくつかを取り上げ全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション（ねらいと目標、進め方）	学生の「総合的な学習の時間」の体験を振り返り、その意義について共有化をはかる。
2	「総合的な学習の時間」の位置づけ（目標、授業時数、他教科との関連）	戦後の学習指導要領にみる「総合的な学習の時間」戦後初期のコア・カリキュラムの示唆するもの
3	カリキュラム上の特徴（問題解決型学習や探求的な学習）	教育課程と校内体制。指導計画の基本的考え方。SDGs と「総合的な学習の時間」
4	実社会に活かす学び（学校教育と実社会経験の架橋）	体験活動・情報活用能力・シティズンシップ教育・地域との連携（フィールドワークを含む）
5	アクティヴ・ラーニングの技法	問題解決型学習・参加型学習・探究的な学習・他者と協同して取り組む学習の実際
6	具体的な実践例（社会科系）と評価方法	公正な社会世界・共生を創る実践と評価
7	具体的な実践例（理科系）と評価方法	循環型社会・気候変動を中心にした実践と評価
8	学校ごとの目標の立て方（目標と診断的評価）	「総合的な学習の時間」の目標と育成を目指す資質・能力。評価の方法・ポイント
9	年間計画と指導案作成の理解	クラス・学年・学校を単位とした年間計画と指導案
10	指導案作成の実践的学習	探究のプロセスのポイントと思考ツールの使用による協同学習
11	指導案改善の観点と方法	課題設定・情報収集・整理分析・まとめ表現の観点と方法を改善する
12	指導案改善の実践的学習	生徒同士の学び合い学習視点での指導案の改善
13	授業指導案の発表と講評（中学校）	中学校における授業指導案の発表と講評
14	授業指導案の発表と講評（高校）	高校における授業指導案の発表と講評

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

「総合的な学習の時間」のテーマを考える上で、毎日、新聞を 30 分以上読み、新聞スクラップブックを作成する。定型用紙は授業者が用意し、そこに自分のコメントを書き込み提出する。新聞が手元に無い場合は、図書館の新聞をコピーし使用する事。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しない。適宜、指示する。

【参考書】

中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領（最新版 文部科学省）
文部科学省（2008 / 2010）『中学校／高等学校学習指導要領解説総合的な学習の時間編』海文堂出版

【成績評価の方法と基準】

平常点（各時間の提出レポート・新聞スクラップの中で授業者が評価に必要であるとしたもの）50 %
最終提出の授業計画案（授業指導案）、期末レポート 50 %

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していない。

【学生が準備すべき機器他】

必要な時は指示する。

【その他の重要事項】

質問事項などは、授業支援システムで行います。1999 年より公立中学校で 15 年間、「総合的な学習の時間」の責任者を経験。現場の実践に役立つ授業をしていく。

【授業中に求められ学習活動】

広く豊かな社会認識を身につけるため積極的な発言、対話を期待する。

【Outline and objectives】

Method for the Period for Integrated Studies. The significance of this subject, flame of purpose and contents in each school, how to make teaching plans, the way of evaluation of students'grades.

総合的な学習の時間の指導法

本山 明

配当年次／単位：2～4 年次／2 単位

開講時期：秋学期授業/Fall

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

総合的な学習の時間の意義と原理、特に学校ごとに目標や内を定める際の考え方を理解する。総合的な学習の時間の指導計画作成の考え方、特に探求的な学習の基礎的な理論や対話を中心とした学習の具体的方法、および他教科との連携の方法を理解し、実際に指導計画が立てられるようになる。総合的な学習の時間の指導と評価の考え方および実践上の留意点を理解できる。

【到達目標】

探求的な見方・考え方をし、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を育む「総合的な学習の時間」の指導計画の作成および具体的な指導の仕方、学習活動の評価に関する知識・技能を身につける。特に、教科ごとに育まれる見方・考え方を活用し、広範な事象を多様な角度から俯瞰してとらえ、実社会・実生活の課題を探求する学びを実現する授業づくりに必要な基礎的力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

「総合的な学習の時間」な学習指導理論を理解し、学習指導案の内容を子どもの認識や思考、学力などの実態に沿ったものに作成できるようにする。また模擬授業の実施と振り返りを通して授業改善の視点を身につける。「総合的な学習の時間」における実践研究の動向を紹介し、グループワーク・問題解決学習など主体的・対話的で深い学びの授業設計の向上に取り組めるようにする。授業内に行ったレポート等のなかでいくつかを取り上げ全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション（ねらいと目標、進め方）	学生の「総合的な学習の時間」の体験を振り返り、その意義について共有化をはかる。
2	「総合的な学習の時間」の位置づけ（目標、授業回数、他教科との関連）	戦後の学習指導要領にみる「総合的な学習の時間」戦後初期のコア・カリキュラムの示唆するもの
3	カリキュラム上の特徴（問題解決型学習や探求的な学習）	教育課程と校内体制。指導計画の基本的考え方。SDGs と「総合的な学習の時間」
4	実社会に活かす学び（学校教育と実社会経験の架橋）	体験活動・情報活用能力・シティズンシップ教育・地域との連携（フィールドワークを含む）
5	アクティヴ・ラーニングの技法	問題解決型学習・参加型学習・探究的な学習・他者と協同して取り組む学習の実践
6	具体的な実践例（社会科系）と評価方法	公正な社会世界・共生を創る実践と評価
7	具体的な実践例（理科系）と評価方法	循環型社会・気候変動を中心にした実践と評価
8	学校ごとの目標の立て方（目標と診断的評価）	「総合的な学習の時間」の目標と育成を目指す資質・能力。評価の方法・ポイント
9	年間計画と指導案作成の理解	クラス・学年・学校を単位とした年間計画と指導案
10	指導案作成の実践的学習	探究のプロセスのポイントと思考ツールの使用による協同学習
11	指導案改善の観点と方法	課題設定・情報収集・整理分析・まとめ表現の観点と方法を改善する
12	指導案改善の実践的学習	生徒同士の学び合い学習視点での指導案の改善
13	授業指導案の発表と講評（中学校）	中学校における授業指導案の発表と講評
14	授業指導案の発表と講評（高校）	高校における授業指導案の発表と講評

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

「総合的な学習の時間」のテーマを考える上で、毎日、新聞を 30 分以上読み、新聞スクラップブックを作成する。定型用紙は授業者が用意し、そこに自分のコメントを書き込み提出する。新聞が手元に無い場合は、図書館の新聞をコピーし使用する事。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しない。適宜、指示する。

【参考書】

中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領（最新版 文部科学省）
文部科学省（2008 / 2010）『中学校／高等学校学習指導要領解説総合的な学習の時間編』海文堂出版

【成績評価の方法と基準】

平常点（各時間の提出レポート・新聞スクラップの中で授業者が評価に必要であるとしたもの）50 %
最終提出の授業計画案（授業指導案）、期末レポート 50 %

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していない。

【学生が準備すべき機器他】

必要な時は指示する。

【その他の重要事項】

質問事項などは、授業後お願いします。1999 年より公立中学校で 15 年間、「総合的な学習の時間」の責任者を経験。現場の実践に役立つ授業をしていく。

【授業中に求められ学習活動】

広く豊かな社会認識を身につけるため積極的な発言、対話を期待する。

【Outline and objectives】

Method for the Period for Integrated Studies. The significance of this subject, flame of purpose and contents in each school, how to make taching plans, the way of evaluation of students'grades.

教育実習（事前指導）

小嶋 常喜

配当年次／単位：3～4 年次／2 単位

開講時期：秋学期授業/Fall

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この科目は、次年度に教育実習に臨むためのいわば関門、ハードルとしての役割をもつものです。従って、出席や課題提出などについて、大変厳しい扱いをせざるを得ませんので、あらかじめよく認識してください。また7月に初回授業としてオリエンテーションを実施し、夏休み課題を提示します。オリエンテーションへの参加が受講の条件となります。

【到達目標】

次年度の教育実習を前に、実習がもつさまざまな意味での重みや責任を認識・理解してもらうこと、より具体的にはグループワークによる模擬授業の実施を通じて、教育実践に必要なチームワーク、教材研究、授業案作成、教壇実習実施の最低条件を学習・修得することが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

具体的には、模擬授業の準備・実施・検討を中心にして事前指導をおこないますが、これに加えて、当該年度に実習を経験した上級生から、授業、生徒理解、特別活動など教育実習総体の経験を学びます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	授業のオリエンテーション	ガイダンス
第2回	教育実習の実際と実習に向けての準備のあり方	教育実習の意味と目的について
第3回	授業の進め方や実習に向けての準備・心構えについて	中学・高校教員に求められる資質とは
第4回	実習ガイダンス 生活指導について	生活指導のあり方について
第5回	実習ガイダンス 2 教育実習全般の注意	実習期間中の過ごし方
第6回	実習ガイダンス 3 校務分掌	教職員のサービス 生徒指導
第7回	実習ガイダンス 4 学校運営全体における情報科担当教員の役割	左記のとおり
第8回	教科指導 授業の事前準備の方法	年間計画と単元計画
第9回	教科指導 学習指導案の作成	副教材の作成方法
第10回	教科指導 学習指導案に即して	発問・板書・まとめ・考査の方法
第11回	教科指導 模擬授業の実施と検討	授業を演出する意味について
第12回	担任指導	生活・進路指導
第13回	ホームルーム指導の実際	生徒指導の実際例を引いてその効果的な指導方法などをまなぶ
第14回	特別活動の指導	HR や行事の教育的な効果について理解する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は合わせて1時間を標準とします。模擬授業についてはこれとは別に十分な準備時間が必要となります。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

「中学校学習指導要領」（社会）およびその「解説」
「高等学校学習指導要領」（地歴・公民）およびその「解説」

【成績評価の方法と基準】

教育実習事前指導は、不合格の評価を受けると次年度の実習が行えません。実習教科ですので、評価にあたっては、出席と授業への積極的参加、課題の提出・実施・取り組みの水準などが厳しく問われます。模擬授業の運営と、それにかかわる準備・授業計画の立案等を総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

実際に授業ができる。
様々な局面における適切な生徒指導ができる。

【学生が準備すべき機器他】

模擬授業の際に自分が必要な教材、機材

【その他の重要事項】

・教職課程履修上のこの授業の特別な位置づけについては、4月に実施される3年生対象のオリエンテーションでお話しますので必ず確認ください。
・7月に実施するオリエンテーション（初回授業）への出席が受講の条件となりますので、各学部掲示版で日程確認を怠らないよう留意ください。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students prepare their teaching practice in secondary schools.

教育実習（事前指導）

本山 明

配当年次／単位：3～4 年次／2 単位

開講時期：秋学期授業/Fall

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

次年度に教育実習を行うにあたり、これまで学んだ教職課程の集大成として、教員に求められる資質を身につけるとともに、授業の構成の方法・生徒指導のあり方などを、各自の模擬授業を通して実践的かつ総合的に学びます。

【到達目標】

次年度の教育実習を前に、実習がもつさまざまな意味での重みや責任を認識・理解してもらうこと、より具体的にはグループワークによる模擬授業の実施を通じて、教育実践に必要なチームワーク、教材研究、授業案作成、教壇実習実施の最低条件を学習・修得することが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

具体的には、模擬授業の準備・実施・検討を中心にして事前指導をおこないますが、これに加えて、当該年度に実習を経験した上級生から、授業、生徒理解、特別活動など教育実習総体の経験を学びます。授業内に行ったレポート等のなかでいくつかを取り上げ全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション（グループ編成・夏休み提出課題の提示）	授業の目的と方法や全体の概要、今後の予定を説明します。
2	夏休み提出課題の返却、講評	提出課題の特徴と注意点を説明します。
3	授業研究（4年生との交流授業）	授業の方法、展開の仕方、授業案の作成について説明します。
4	生活指導研究（4年生との交流授業）	生徒とのコミュニケーションの取り方について説明します。
5	模擬授業準備のグループワーク	グループごとに模擬授業の準備をします。
6	模擬授業とその評価①	グループごとに模擬授業を行い、全体で批評をします。
7	模擬授業とその評価②	グループごとに模擬授業を行い、全体で批評をします。
8	模擬授業とその評価③	グループごとに模擬授業を行い、全体で批評をします。
9	模擬授業とその評価④	グループごとに模擬授業を行い、全体で批評をします。
10	模擬授業とその評価⑤	グループごとに模擬授業を行い、全体で批評をします。
11	模擬授業とその評価⑥	グループごとに模擬授業を行い、全体で批評をします。
12	模擬授業とその評価⑦	グループごとに模擬授業を行い、全体で批評をします。
13	模擬授業のふりかえり ふりかえりレポートの作成	模擬授業全体を通して到達点と課題を確認します。
14	実習経験者・実習予定者の交流学習	教育実習の経験を経た4年生と意見交換を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・7月に実施するオリエンテーション（初回授業）で提示する夏休み課題への取り組み

・後期授業でおこなうグループ模擬授業の準備と反省

・教育実習修了者（4年生）の学習発表への参加本授業の準備学習・復習時間は合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しません。

【参考書】

オリエンテーション時に配布します。

【成績評価の方法と基準】

教育実習事前指導は、○と×で評価をおこないます。×の評価を受けると、次年度の実習が行えません。実習教科ですので、評価にあたっては、出席と授業への積極的参加、課題の提出・実施・取り組みの水準などが厳しく問われます。

【学生の意見等からの気づき】

全員が模擬授業を必ず行っておくことが大切です。

【学生が準備すべき機器他】

模擬授業は、実施グループがビデオで撮影することを予定しています。

【その他の重要事項】

- ・教職課程履修上のこの授業の特別な位置づけについては、4月に実施される3年生対象のオリエンテーションでお話しますので必ず確認ください。
- ・7月に実施するオリエンテーション（初回授業）への出席が受講の条件となりますので、各学部掲示板で日程確認を怠らないよう留意ください。
- ・この授業では、授業支援システムの利用を予定しています。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students prepare their teaching practice in secondary schools.

教育実習（事前指導）

高橋 繁

配当年次／単位：3～4 年次／2 単位

開講時期：秋学期授業/Fall

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この科目は、次年度に教育実習に臨むためのいわば関門、ハードルとしての役割をもつものです。従って、出席や課題提出などについて、大変厳しい扱いをせざるを得ませんので、あらかじめよく認識してください。また7月に初回授業としてオリエンテーションを実施し、夏休み課題を提示します。オリエンテーションへの参加が受講の条件になります。

【到達目標】

次年度の教育実習を前に、実習がもつさまざまな意味での重みや責任を認識・理解してもらうこと、より具体的にはグループワークによる模擬授業の実施を通じて、教育実践に必要なチームワーク、教材研究、授業案作成、教壇実習実施の最低条件を学習・修得することが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

具体的には、模擬授業の準備・実施・検討を中心にして事前指導をおこないますが、これに加えて、当該年度に実習を経験した上級生から、授業、生徒理解、特別活動など教育実習総体の経験を学びます。授業計画は授業の展開によって、若干の変更はあり得ます。課題に対する講評と解説は授業の中で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	グループ編成・夏休み提出課題の提示
第2回	学習指導案の書き方	夏休み提出課題の返却と講評。グループ研究。
第3回	授業研究	4年生による模擬授業と交流
第4回	生活指導研究	4年生による発表と交流
第5回	模擬授業1	第1グループによる模擬授業および批評会
第6回	模擬授業2	第2グループの模擬授業と批評会
第7回	模擬授業3	第3グループの模擬授業と批評会
第8回	模擬授業4	第4グループの模擬授業と批評会
第9回	模擬授業5	第5グループの模擬授業と批評会
第10回	模擬授業6	第6グループの模擬授業と批評会
第11回	模擬授業7	第7グループの模擬授業と批評会
第12回	模擬授業のふりかえり	模擬授業で学んだことをまとめる
第13回	現代の教育課題	実習経験者・実習予定者の交流学習 4年生の発表を聞く
第14回	まとめ	実習経験者・実習予定者の交流学習 教育実習までに準備しておくことをまとめる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

7月に実施するオリエンテーション（初回授業）で提示する夏休み課題への取り組み

後期授業でおこなうグループ模擬授業の準備・反省

教育実習修了者（4年生）の学習発表への参加本授業の準備学習・復習時間は合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しません。

【参考書】

中学校・高等学校の各種教科書および指導関連の図書が図書館にありますので、積極的に利用してください。

必要文献、資料などを適宜紹介、あるいは配布します。

【成績評価の方法と基準】

教育実習事前指導は、○と×で評価をおこないます。×の評価を受けると、次年度の実習が行えません。実習教科ですので、評価にあたっては、出席と授業への積極的参加、課題の提出・実施・取り組みの水準などが厳しく問われます。

【学生の意見等からの気づき】

模擬授業のグループ分けや準備方法を工夫していきます。

【学生が準備すべき機器他】

模擬授業は、実施グループがビデオで撮影することを予定しています。

そのため、後期の冒頭、授業開始前にビデオ講習（撮影のみ）を受講してもらいます。

【その他の重要事項】

この授業では、学習支援システムの利用を予定しています。

【授業中に求められる学習活動】

・教職課程履修上この授業の特別な位置づけについて、3年次生対象の4月のオリエンテーションでお話します。

・7月に実施するオリエンテーション（初回授業）への出席が受講の条件となりますので、各学部掲示版で日程確認を怠らないよう留意してください

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students prepare their teaching practice in secondary schools.

教育実習（事前指導）

御園生 純

配当年次／単位：3～4 年次／2 単位

開講時期：秋学期授業/Fall

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この科目は、次年度に教育実習に臨むための、関門・ハードルとしての役割を持ちます。従って、出席や課題提出などについて、非常に厳しい扱いをせざるをえません。よく認識してください。後期授業ですが、7月に第一回目の授業を行います。その時、夏期課題を提示します。7月授業の出席が第一関門です。必ず出席してください。

【到達目標】

次年度に行う教育実習のために、実習の重み・責任を強く認識し理解することが大切です。具体的には、グループワークによる模擬授業を行い、教育実習に欠かせない教材研究・教案作成の方法と実践力をつけ、教壇実習実施のための最低条件を学習・習得すること、さらに実施のためのチームワーク力を身につけることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

具体的には、模擬授業の準備・実施・検討を中心にして事前指導を行います。加えて、実習を経験した上級生から、授業（教案を含む）、生徒理解、その他、つまり教育実習総体の経験を学びます。

・課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション（7月実施）	必ず出席。グループ編成、夏期課題の提示・説明
2	授業案の講評	夏期課題の返却と講評
3	授業研究	4年生（教員）の模擬授業から学ぶ
4	生活指導研究	4年生（教員）の実習報告から学ぶ
5	模擬授業の準備	模擬授業準備のグループワーク
6	模擬授業1	担当グループの模擬授業
7	模擬授業2	担当グループの模擬授業
8	模擬授業3	担当グループの模擬授業
9	模擬授業4	担当グループの模擬授業
10	模擬授業5	担当グループの模擬授業
11	模擬授業6	担当グループの模擬授業
12	模擬授業のふりかえり	全員による検討・討議
13	交流学習	実習経験者・実習予定者の交流学習
14	事前指導のまとめ	振り返りレポートの作成

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・7月のオリエンテーション（初回授業）出席。夏期課題＝夏期休暇中に提出しますが、不十分な場合、再提出することになります。

・模擬授業はグループで取り組みますので、授業時間外のグループワークが必要です。

・教材研究や教案作成・資料作成など、模擬授業に関する準備と振り返りがあります。本授業の準備学習・復習時間は合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しません。

【参考書】

中学校・高等学校の各種教科書および指導関連の図書が図書館にありますので、積極的に利用してください。その他、参考図書についての詳細は、7月オリエンテーションで行います。

【成績評価の方法と基準】

教育実習事前指導は、○と×で評価を行います。×の評価を受けると、次年度の実習が行えません。実習教科ですので、評価にあたっては、出席と授業への積極的参加、課題の提出・実施・取り組みの水準などが厳しく問われます。春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにもない、成績評価の方法と基準も変更します。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示します。

【学生の意見等からの気づき】

現時点で特にありませんが、授業期間中でも積極的な意見を歓迎します。

【学生が準備すべき機器他】

・模擬授業は、実施グループがビデオで撮影して自己点検を行えるようにしています。

・授業支援システムの利用を予定しています。

【その他の重要事項】

教職課程履修上の、この授業の特別な位置づけについて、3年次を対象とした4月冒頭のオリエンテーションでお話します。なお、7月に実施するオリエンテーション（初回授業）への出席が受講の条件となります。各学部掲示板で、日程確認を怠らぬようくれぐれも留意してください。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students prepare their teaching practice in secondary schools.

教育実習（高）

永木 耕介

配当年次／単位：4 年次／4 単位

開講時期：年間授業/Yearly

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

実際の高等学校に赴き、教育実習生として 2 週間ないし 3 週間にわたり、授業、学級運営、課外活動指導などにあたる。

【到達目標】

教育の現場たる中学校・高等学校における教師の多様な教育実践・実務（教師の仕事）を体験することを通して、「教育」の重要性・困難性、人間性（生徒）と接し、未来の教師としての基礎的力量を育成するとともに、その責任と自覚を確立することを目的とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

教育実習は、教員免許取得に必要な全教育課程の総仕上げとして位置づけられている。具体的には、①教育実習に向けての事前指導（現職教師の特別講義を含む）、②中学校・高等学校での実習、③実習後の反省と総括（次年度実習予定者への助言も含む）を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
実習前①	事前指導	第 3 年次（教育実習前年度）に各免許教科別に分かれて授業を行う。事前指導は、模擬授業を中心に、教職に関する実践的な知識と力量の基礎を身につけることを目的とする。
実習前②	教育実習特別講義	教育実習を直前に控えた学生を対象とした講義、教育実習指導教員からの教科指導・生活指導に関するアドバイス・諸注意などの指導を行う。
実習中①	教育実習校でのオリエンテーション	実習校の概要や特色、指導方針等の確認、指導教員との打ち合わせ等
実習中②	教育実習（2 週間）	・現職の先生の授業を見学 ・学習指導案の作成 ・授業実習 ・研究授業（実習生が行う教育実習の総仕上げの授業実践） ・研究授業の反省会（研究授業後、実習校の先生から指導を受ける。）
実習後	事後指導	事後指導は、教育実習の体験を総括し、共有することで、今後教壇に立つための更なる課題を自覚することを目的とする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

担当する授業の授業案の作成など本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

各プロセスで指示する。

【参考書】

必要に応じて指示する。

【成績評価の方法と基準】

実習校の採点を主とし、実習日誌の評価、実習後にまとめる実習レポートの採点および事後指導の結果を加味して、総合的に出される。なお、評価は、この両者を総合評価するが、それぞれに一定の基準を満たさなければ、教育実習の単位は修得できない。

【学生の意見等からの気づき】

該当しない

【Outline and objectives】

This course is teaching practice in secondary schools for 2 or 3 weeks. Students will work on teaching, class management and extra curricular activities as trainees.

教育実習（中・高）

永木 耕介

配当年次／単位：4 年次／4 単位

開講時期：年間授業/Yearly

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

実際の中学校・高等学校に赴き、教育実習生として 2 週間ないし 3 週間にわたり、授業、学級運営、課外活動指導などにあたる。

【到達目標】

教育の現場たる中学校・高等学校における教師の多様な教育実践・実務（教師の仕事）を体験することを通して、「教育」の重要性・困難性、人間性（生徒）と接し、未来の教師としての基礎的力量を育成するとともに、その責任と自覚を確立することを目的とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

教育実習は、教員免許取得に必要な全教育課程の総仕上げとして位置づけられている。具体的には、①教育実習に向けての事前指導（現職教師の特別講義を含む）、②中学校・高等学校での実習、③実習後の反省と総括（次年度実習予定者への助言も含む）を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
実習前①	事前指導	第 3 年次（教育実習前年度）に各免許教科別に分かれて授業を行う。事前指導は、模擬授業を中心に、教職に関する実践的な知識と力量の基礎を身につけることを目的とする。
実習前②	教育実習特別講義	教育実習を直前に控えた学生を対象とした講義、教育実習指導教員からの教科指導・生活指導に関するアドバイス・諸注意などの指導を行う。
実習中①	教育実習校でのオリエンテーション	実習校の概要や特色、指導方針等の確認、指導教員との打ち合わせ等
実習中②	教育実習（3 週間）	・現職の先生の授業を見学 ・学習指導案の作成 ・授業実習 ・研究授業（実習生が行う教育実習の総仕上げの授業実践） ・研究授業の反省会（研究授業後、実習校の先生から指導を受ける。）
実習後	事後指導	事後指導は、教育実習の体験を総括し、共有することで、今後教壇に立つための更なる課題を自覚することを目的とする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

担当する授業の授業案の作成など本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

各プロセスで指示する。

【参考書】

必要に応じて指示する。

【成績評価の方法と基準】

実習校の採点を主とし、実習日誌の評価、実習後にまとめる実習レポートの採点および事後指導の結果を加味して、総合的に出される。なお、評価は、この両者を総合評価するが、それぞれに一定の基準を満たさなければ、教育実習の単位は修得できない。

【学生の意見等からの気づき】

該当しない

【Outline and objectives】

This course is teaching practice in secondary schools for 2 or 3 weeks. Students will work on teaching, class management and extra curricular activities as trainees.

教職実践演習（中・高）

小嶋 常喜

配当年次／単位：4 年次／2 単位

開講時期：秋学期授業/Fall

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、以下のいくつかの観点から、将来教職を担うに相応しい知識、技能、姿勢の理解を深め、4年間の大学における教職課程履修の総仕上げをおこなう科目です。

【到達目標】

- ①学校現場における授業計画・実践力量（授業指導案の作成を含む）の深化、
 - ②専門教科領域における教育研究と教材作成力量の深化、
 - ③子ども理解及び学級・学校の実際の理解、
 - ④教育職に向けた意欲と各自の目標の設定、
 - ⑤コミュニケーションと発表・プレゼンテーションの技能向上、
- の五点を学習の到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

授業は演習形式でおこない、グループ学習、次年度教育実習予定者との共同討論、模擬授業づくりのサポートを通じた経験報告やアドバイス、最終報告（プレゼンテーションや報告）の発表会などによって構成されます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	本講義の目標と性格について	本講義の性格、課題、到達すべき目標の確認。「履修カルテ」および「教職課程のふりかえり～自己評価と課題」レポート（1500 字程度）の提出（あるいはその指示）。 ②本「演習」の期末課題に関する説明。課題は「教育関係者のヒアリング報告・後輩に残す教科教材の作成・教職に関する研究レポート」から学生が選択し決定する。
2	①各自のふりかえり交流（1 回目） ②期末課題のテーマ登録	提出された「自己評価と課題」を素材に、これからの時代・社会における教職にはどのような力量・専門性が求められるのか、学生の報告と討論を行う。
3	各自のふりかえり交流（2 回目）	前回に引き続き、提出された「自己評価と課題」を素材に、これからの時代・社会における教職にはどのような力量・専門性が求められるのか、学生の報告と討論を行い、そのまとめを踏まえて、次年度教育実習予定者へのメッセージを作成する
4	次年度実習予定者へのプレゼンテーション	教育実習に向けて準備をしている 3 年生に対して、教育実習への準備の在り方、指導案の書き方、実習授業の進め方などを伝え、3 年生との応答をおこなう。（グループ分けによって多くの学生の報告を可能にする）
5	①「これからの時代・社会の教職に求められる専門職性」をめぐる講義ならびにグループディスカッションのテーマの起案 ② 期末課題の計画書提出	テーマ設定にあたっては、「教科教育・生徒指導・学校・学級運営」についてそれぞれ起案する。今日の教育労働がおかれている実態や法的仕組みなども踏まえつつ、その専門職性の高度化について考える。
6	グループディスカッション①	グループディスカッションに向けた準備作業。
7	グループディスカッション②	「教科教育」を通じた、これからの時代・社会の教職に求められる専門職性をめぐるシンポジウムもしくはディベート形式の討論
8	グループディスカッション③	「生徒指導・学校・学級運営」を通じた、これからの時代・社会の教職に求められる専門職性をめぐるシンポジウムもしくはディベート形式の討論
9	期末課題製作作業①	第 12 回の発表予定者は教員に対して中間報告をおこない、コメントを受ける。

10	期末課題製作作業②	第 13 回の発表予定者は教員に対して中間報告をおこない、コメントを受ける。
11	期末課題製作作業③	第 14 回の発表予定者は教員に対して中間報告をおこない、コメントを受ける。
12	期末課題発表会①	成させた期末課題の発表会をおこなう。ここには次年度教育実習予定者はじめ、1,2,3 年生の教職課程履修学生にも参加を呼びかけ、その評価を受ける場合もある。以下第 13 回、14 回も同様。
13	期末課題発表会②	期末課題発表会②
14	期末課題発表会③	期末課題発表会③

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

オリエンテーション時に提示した課題への取り組み
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定のものは使用しない

【参考書】

必要に応じて提示する

【成績評価の方法と基準】

教職実践演習は通常の評価をおこないます。実習教科ですので、評価にあたっては、出席、授業への積極的参加・発言、課題の提出・実施・取り組みの水準などが厳しく問われます。評価の割合と基準は以下の通りです。

- (1) 教育実習後レポート（20%）：教育実習を基本的な振り返りができたか。
- (2) 授業内での発表・取り組み（40%）：自らの実習体験を 3 年生に有用な形で伝えることができたか。
- (3) 修了作品（40%）：教育実習の成果と課題をまとめることができたか。

【学生の意見等からの気づき】

模擬授業への相互の講評を今後も大事にしたい。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire proper knowledge and skills needed for educational professionals. By the end of this course, students should complete their final report of teacher training course.

教職実践演習（中・高）

本山 明

配当年次／単位：4 年次／2 単位

開講時期：秋学期授業/Fall

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、いくつかの観点から、将来教職を担うに相応しい知識、技能、姿勢の理解を深め、4年間の大学における教職課程履修の総仕上げをおこなう科目です。

【到達目標】

- ①学校現場における授業計画・実践力量（授業指導案の作成を含む）の深化
 - ②専門教科領域における教育研究と教材作成力量の深化
 - ③子ども理解及び学級・学校の実際の理解
 - ④教育職に向けた意欲と各自の目標の設定
 - ⑤コミュニケーションと発表・プレゼンテーションの技能向上
- の五点を学習の到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

授業は演習形式でおこない、グループ学習、次年度教育実習予定者との共同討論、模擬授業づくりのサポートを通じた経験報告やアドバイス、最終報告（プレゼンテーションや報告）の発表会などによって構成されます。授業内に行ったレポート等のなかでいくつかを取り上げ全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	①本講義の目標と性格について——本講義の性格、課題、到達すべき目標の確認②本「演習」の期末課題に関する説明	「履修カルテ」および「教職課程のふりかえり～自己評価と課題」レポート（1500 字程度）の提出（あるいはその指示）。課題は「教育関係者のヒアリング報告・後輩に残す教科教材の作成・教職に関する研究レポート」から学生が選択し決定する。
第2回	①各自のふりかえり交流（1回目）②期末課題のテーマ登録	提出された「自己評価と課題」を素材に、これからの時代・社会における教職にはどのような力量・専門性が求められるのか、学生の報告と討論を行う。
第3回	各自のふりかえり交流（2回目）	前回に引き続き、提出された「自己評価と課題」を素材に、これからの時代・社会における教職にはどのような力量・専門性が求められるのか、学生の報告と討論を行い、そのまとめを踏まえて、次年度教育実習予定者へのメッセージを作成する。
第4回	次年度実習予定者へのプレゼンテーション	教育実習に向けて準備をしている3年生に対して、教育実習への準備の在り方、指導案の書き方、実習授業の進め方などを伝え、3年生との応答をおこなう。（グループ分けによって多くの学生の報告を可能にする）
第5回	①「これからの時代・社会の教職に求められる専門職性」をめぐる講義ならびにグループディスカッションのテーマの起案。②期末課題の計画書提出	テーマ設定にあたっては、「教科教育・生徒指導・学校・学級運営」についてそれぞれ起案する。今日の教育労働がおかれている実態や法的仕組みなども踏まえつつ、その専門職性の高度化について考える。
第6回	グループディスカッションに向けた準備作業	準備作業。
第7回	グループディスカッション①	「教科教育」を通じた、これからの時代・社会の教職に求められる専門職性をめぐるシンポジウムもしくはディベート形式の討論。
第8回	グループディスカッション②	「生徒指導・学校・学級運営」を通じた、これからの時代・社会の教職に求められる専門職性をめぐるシンポジウムもしくはディベート形式の討論。
第9回	期末課題製作作業①	第12回の発表予定者は教員に対して中間報告をおこない、コメントを受ける。

第10回 期末課題製作作業②

第13回の発表予定者は教員に対して中間報告をおこない、コメントを受ける。

第11回 期末課題製作作業③

第14回の発表予定者は教員に対して中間報告をおこない、コメントを受ける。

第12回 期末課題発表会①

完成させた期末課題の発表会をおこなう。ここには次年度教育実習予定者はじめ、1,2,3年生の教職課程履修学生にも参加を呼びかけ、その評価を受ける場合もある。

第13回 期末課題発表会②

完成させた期末課題の発表会をおこなう。ここには次年度教育実習予定者はじめ、1,2,3年生の教職課程履修学生にも参加を呼びかけ、その評価を受ける場合もある。

第14回 期末課題発表会③
まとめ、期末課題の提出

完成させた期末課題の発表会をおこなう。ここには次年度教育実習予定者はじめ、1,2,3年生の教職課程履修学生にも参加を呼びかけ、その評価を受ける場合もある。
まとめと課題提出。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・7月にオリエンテーションをおこないますので、必ず参加ください。
- ・期末課題の作成には、学外でのフィールドワークなど課外活動が必要になります。
- ・次年度教育実習予定者のクラスに何度か参加して、後輩の支援・指導にあたります。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。毎回必要文献、資料など指定、あるいは配布します。

【参考書】

- ・『文部科学白書』最新版（インターネットによる文科省ホームページを利用）等のデータ
- ・教育実践記録（講義の最初に指示する）
- ・『中学校・高等学校学習指導要領』

【成績評価の方法と基準】

特に期末テストは行わない。期末課題の提出をもって、終了とする。①期末課題とその発表・報告に対する評価、②演習への参加と積極的な役割の遂行や討論への参加状況、を総合的に勘案して評価をおこないます。なお、最終的評価については、必要に応じて個別評価面接を実施する事があります。平常点50%、期末課題50%。

【学生の意見等からの気づき】

あり

【学生が準備すべき機器他】

あり

【その他の重要事項】

上記以外に別途、次年度教育実習予定者を対象とした「教育実習事前指導」に各自数回参加して、模範授業の実施、ないしは後輩の模擬授業づくりへの指導・サポートをおこなう。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire proper knowledge and skills needed for educational professionals. By the end of this course, students should complete their final report of teacher training course.

教職実践演習（中・高）

高橋 繁

配当年次／単位：4 年次／2 単位

開講時期：秋学期授業/Fall

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

将来教職を担うに相応しい知識、技能、姿勢の理解を深め、4年間の大学における教職課程履修の総仕上げをおこなう科目です。

【到達目標】

- ①学校現場における授業計画・実践力量（授業指導案の作成を含む）の深化
- ②専門教科領域における教育研究と教材作成力量の深化
- ③子ども理解及び学級・学校の実際理解
- ④教育職に向けた意欲と各自の目標の設定
- ⑤コミュニケーションと発表・プレゼンテーションの技能向上

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

授業は演習形式でおこない、グループ学習、次年度教育実習予定者との共同討論、模擬授業づくりのサポートを通じた経験報告やアドバイス、期末課題の発表会などによって構成されます。授業計画は授業の展開によって若干の変更があり得ます。課題に対する講評と解説は、授業の中で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	①本講義の概要説明。「履修カルテ」および「教職課程のふりかえり～自己評価と課題」レポートの提出の指示。
第2回	各自のふりかえり交流	②本演習の期末課題に関する説明。提出された「自己評価と課題」を素材に、これからの時代・社会における教職にはどのような力量・専門性が求められるのか、学生の報告と討論を行う。
第3回	次年度実習予定者へのプレゼンテーション	3年生に対して、教育実習への準備の在り方、指導案の書き方、実習授業の進め方などを伝え、応答をおこなう。
第4回	「これからの時代・社会の教職に求められる専門職性」をめぐるグループディスカッションのテーマの起案。	テーマ設定にあたっては、「教科教育・生徒指導・学校・学級運営」についてそれぞれ起案する。今日の教育労働がおかれている実態や法的仕組みなども踏まえつつ、その専門職性の高度化について考える。
第5回	グループディスカッション準備	ディスカッションに向けた準備。
第6回	グループディスカッション①	「教科教育」を通じた専門職性をめぐる討論
第7回	グループディスカッション②	「生徒指導・学校・学級運営」を通じた専門職性をめぐる討論
第8回	期末課題製作作業①	第11回の発表予定者は教員に対して中間報告をおこなう。
第9回	期末課題製作作業②	第12回発表予定者は中間報告
第10回	期末課題製作作業③	第13回発表予定者は中間報告
第11回	期末課題発表会①	期末課題の発表会。ここには次年度教育実習予定者をはじめ、1,2,3年生の教職課程履修学生にも参加を呼びかけ、その評価を受ける場合もある。
第12回	期末課題発表会②	前回到続き、期末課題の発表を行う。
第13回	期末課題発表会③	前回到続き、期末課題の発表を行う。あわせて、後期に教育実習を行った学生の報告も行う。
第14回	まとめ	これまでの授業をふりかえるとともに、課題を提出する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・7月にオリエンテーションを行いますので必ず参加下さい。
- ・期末課題の作成には、学外でのフィールドワークなど課外活動が必要になります。
- ・教育実習予定者を対象とした「教育実習事前指導」に数回参加して、模範授業の実施、後輩の模擬授業づくりへのサポートをおこないます。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。

【参考書】

- ・必要文献、資料などを適宜指定、紹介、あるいは配布します。

【成績評価の方法と基準】

①期末課題とその発表・報告に対する評価（50%）②演習への参加と積極的な役割の遂行や討論への参加状況（40%）③レポート課題（10%）を総合的に勘案して評価をおこないます。なお、最終的評価については、必要に応じて個別評価面接を実施する事があります。

【学生の意見等からの気づき】

ディスカッションなどを通して、目標がより深化するよう努めていきます。

【学生が準備すべき機器他】

この授業では学習支援システムの利用を予定しています。

【その他の重要事項】

特になし

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire proper knowledge and skills needed for educational professionals. By the end of this course, students should complete their final report of teacher training course.

教職実践演習（中・高）

御園生 純

配当年次／単位：4 年次／2 単位

開講時期：秋学期授業/Fall

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、将来の教育専門職に相応しい知識、技能などの理解を深め、4年間の大学における教職課程履修の総仕上げをおこなう科目です。

【到達目標】

学習の目標は以下の通りです。

- ①学校現場における授業づくりの実践力量の深化、
- ②専門教科領域における教育研究と教材作成力量の深化、
- ③生徒理解や学級・学校運営に関する実践力量の深化、
- ④教育職に関する理解の深化と各自の目標の設定、
- ⑤教育専門職としての他者との関わり・自己表現の深化、

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

授業は演習形式でおこない、グループ学習、次年度教育実習予定者との共同学習、模擬授業づくりのサポートを通じた経験報告やアドバイス、期末報告の発表会などによって構成されます。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行います。各課題について受講生毎に講評します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス 本講義の目的と位置づけ	①本講義の性格、課題、到達目標の確認。②本演習の期末課題に関する説明。課題は「教育関係者のヒアリング報告・後輩に残す教科教材の作成・教職に関する研究レポート」から学生が選択し決定する。
2	教職課程のふりかえり交流（1回目）	これからの時代・社会における教職にはどのような力量・専門性が求められるのか、報告と討論を行う。
3	教職課程のふりかえり交流（2回目）	前回の報告と討論を踏まえて、次年度教育実習予定者へのメッセージを作成する。
4	次年度実習予定者へのプレゼンテーション	次年度教育実習予定者に対して、教育実習への準備の在り方、授業づくりのあり方、実習授業の展開などを伝える。
5	グループディスカッションに向けた準備作業。	これからの教職実践の問い（授業づくり、生徒理解）を出し合い、グループディスカッションのテーマを決め、準備をおこなう。
6	グループディスカッション①	「授業づくり」を通じた、これからの時代・社会の教職に求められる専門職性をめぐるディベート形式の討論。
7	グループディスカッション②	「生徒理解」を通じた、これからの時代・社会の教職に求められる専門職性をめぐるディベート形式の討論。
8	期末課題のテーマの起案と計画書の提出	期末課題の計画書を作成・提出する
9	期末課題製作作業①	第12回の発表予定者は教員に対して中間報告をおこない、コメントを受ける。
10	期末課題製作作業②	第13回の発表予定者は教員に対して中間報告をおこない、コメントを受ける。
11	期末課題製作作業③	第14回の発表予定者は教員に対して中間報告をおこない、コメントを受ける。
12	期末課題発表会①	完成させた期末課題の発表会をおこなう。ここには次年度教育実習予定者など教職課程履修学生にも参加を呼びかけ、コメントを受ける。
13	期末課題発表会②	各自の発表に対する講評と問題点や改善点の抽出。
14	期末課題発表会③	前回の授業を踏まえて加筆修正した最終課題の再発表。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・7月にオリエンテーションをおこないますので、必ず参加ください。
- ・期末課題の作成には、グループワークが必要になります。

・次年度教育実習予定者のクラスに何度か参加して、後輩の支援・指導にあたります。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

・特に指定しません。必要に応じて、文献や資料などを指定あるいは配布します。

【参考書】

- ・『文部科学白書』最新版（インターネットによる文部省ホームページを利用等のデータ）
- ・教育実践記録（講義の最初に提示します）
- ・『中学校・高等学校学習指導要領』

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業への参加度） 20%
 授業指導案 40%
 模擬授業 40%

【学生の意見等からの気づき】

現時点では特にありませんが、授業期間の途中でも、積極的な意見を歓迎します。

【学生が準備すべき機器他】

この授業では授業支援システムの利用を予定しています。

【その他の重要事項】

7月にオリエンテーションをおこないますので、必ず参加ください。

【授業中に求められる学習活動】

学生がつくる授業ですので授業への積極的な参加が要求されます。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire proper knowledge and skills needed for educational professionals. By the end of this course, students should complete their final report of teacher training course.

社会教育経営論

荒井 容子

配当年次／単位：2～4 年次／4 単位

開講時期：年間授業/Yearly

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地域社会での、おとなから子どもまで、人々の学びの多様な実態を理解し、それを支える社会教育について、社会教育施設、民間の社会教育事業・活動等の現状を理解し、施設経営、事業展開について、その成果を評価し、課題を析出するための理念と手法を知ることを目指す。

【到達目標】

地域社会で人々の学びを支える多様な取り組みの意義を、人々の学びに対する地域社会の諸機関・諸団体からの期待とも関連させながら、地方自治体の社会教育行政施策のあり方も含め、全体としてとらえることができる力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

通常は、資料等をもとに説明したあと討議を行いながら講義を進める。春学期の学習成果をもとに、各自で特定自治体を選び、当該地域での社会教育施設・施策、住民の学習運動に関する調査を実施してもらい、その成果を中間レポートとして、秋学期はじめに提出してもらおう。秋学期第2回講義では、この中間レポートを受講生全体で検討する。講義最終回には秋学期の学習成果を踏まえて中間レポートを改定した最終レポート提出し報告してもらい、全体で検討しあう。この中間レポート、最終レポートの講義中の検討における教員から質問・コメントが、受講生の学習成果提出に対するフィードバックにあたる。全学行動制限レベル「0」になるまではオンラインによるバーチャル教室と実際の教室での講義を併用して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	学びの多様性	社会教育経営の前提となる、人間にとっての「学び」の意味について解説する。
2	社会教育経営の前提となる、人間にとっての「学び」の意味について解説する。	人々にとっての地域社会の多様な意味について解説する。
3	日常生活と地域社会	人々の日常生活と地域社会の関係の多様性について解説する
4	地域社会での人々の学びの全体像	地域社会での人々の学びの多様性について解説する。
5	人々の学びに関する統計調査	地域社会での人々の学びに関する既存の統計調査をもとにその価値と限界について解説する。
6	人々の学びに関する事例調査	地域社会での人々の学びに関する既存の事例調査をもとにその価値と限界について解説する。
7	人々の学びに関する歴史的把握	地域社会での人々の学びを歴史調査から把握することの価値と限界について解説する
8	人々の学びの支援	人々の学びを支援するとはどういうことか、教育論から解説する。
9	学びを支援する多様な形態	地域社会での人々の学びを支援する担い手・内容の多様性について解説する。
10	教育機関を通じた施設提供	社会教育施設・学校による施設提供について、その実際と成果を評価する方法について解説する。
11	教育施設以外の施設提供	教育施設以外の施設の提供について、その実際と成果を評価する方法について解説する。
12	学習者が施設提供の担い手になる意義	学習者としての地域住民が施設の提供者になることについて、その実際と成果を評価する方法について解説する。
13	地域住民からの期待に応える学習プログラム等	学習者としての地域住民からの期待に応える学習プログラム等の実際とその成果を評価する方法について解説する。
14	地域の諸機関・諸組織から求められる学習プログラム等	地域の学校等諸機関や諸組織からの期待に応える学習プログラム等の実際とその成果を評価する方法について解説する。

秋学期

回	テーマ	内容
1	地域住民自身が学習プログラム等の企画者になる意義	学習者としての地域住民が事業企画の担い手となることの実際とその成果を評価する方法
2	地域社会での人々の学びの支援の実際	受講生による実態調査報告（春学期の学習成果を踏まえた調査報告）
3	社会教育に関わる法制度	地域社会における社会教育に関わる法制度の歴史と現状について解説する
4	社会教育施設等の歴史と現状	地域社会における社会教育施設整備の歴史と現状について解説する。
5	民間諸団体による社会教育活動の歴史と現状	民間諸団体による社会教育活動の歴史と現状について解説する。
6	施設運営・事業展開のための費用	社会教育活動のための予算獲得・資金調達等の歴史と課題、方法について解説する。
7	施設運営・事業展開のための情報収集・広報	社会教育施設経営・社会教育事業展開のための情報収集・広報に関する歴史と課題、方法について解説する。
8	諸機関・諸組織の連携	社会教育機関・学校・民間組織との連携の全体像と歴史について解説する。
9	学校との連携	社会教育機関と学校との連携の歴史と現状、課題について解説する。
10	民間諸組織との連携	民間諸組織との連携
11	職員体制のあり方	施設運営・事業展開を担う職員体制のあり方について解説する。
12	職員体制整備の方法	施設運営・事業展開のための有給職員確保の課題と方法について解説する。
13	地域社会で人々の学びを支える「仕組み」の課題	自治体職員、民間諸団体被雇用職員、民間諸団体運営者、民間企業経営者、地域団体組織リーダー、学習する地域住民等、多様な立場から、課題の全体像をつかむために受講生全体で討議し、それをふまえて解説する。
14	地域社会で人々の学びを支える「仕組み」の継続と改革	各自がまとめた実態調査結果に基づいて、改めて地域社会での人々の学びを支える仕組みのあり方として再評価し、課題を提示し合い、受講生間で討議する。その討議と関連させて、社会教育経営の課題について解説する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日頃から身近な社会教育施設やさまざまな学習活動、社会教育事業に興味をもち、自主的に参加して体験を積んでおくこと。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

講義時に、適宜、講義内容に合わせた資料を提示する。

【参考書】

社会教育全国協議会編『社会教育・生涯学習ハンドブック』エイデル研究所（第7版）2005年、（第8版）2011年、（第9版）2017年。

【成績評価の方法と基準】

春学期のまとめとして課すレポートを35%程度、講義内でのその報告を10%程度、秋学期のまとめとして課すレポートを35%程度、講義内でのその報告を10%程度、また毎回の講義での討議等への貢献度を10%程度で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

受講生が10名に満たないためアンケートは行っていない。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムによる「お知らせ」のeメールが確実に自分に届くようにしておくこと。

【Outline and objectives】

In this course we grasp the variety of peoples' learning in their community lives from children to adults, and also understand the role of social education to support their learning activities through its facilities and practices both by public sectors and by private ones. Through this process we get the idea and methods to evaluate both the facility management and the practices of social education and found out their challenges.

社会教育総合演習（実習を含む）

江頭 晃子

配当年次／単位：2～4 年次／4 単位

開講時期：年間授業/Yearly

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会教育という学びの場を体験的に学びながら、自分の課題に向き合い、学びの受容者から、学びをつくり出す主体となる視点を持てるようになる。

【到達目標】

学びの場・交流の場などを自ら作り出す（講座企画、地域調査、フィールドワーク、居住地域での社会教育施設等での実習体験などの実施）。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

講義と演習・実習を行う。受講生自身の興味関心や在住地域により、実習先や方法は検討する。受講生の状況に応じて授業内容に若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	自己紹介と状況交換
2	教育とは	教育とは何か。 各自にとっての教育。
3	教育の3つの形	学校教育・社会教育・家庭教育
4	私の教育史	私の教育史を書いてみる
5	社会教育とは	社会教育とは何か
6	社会教育施設調査	自分の居住自治体の社会教育リソース調査
7	コロナ禍における教育のありかた	自治体による違い
8	市民組織	市民組織の役割
9	地域の市民組織	自分の居住地域における市民組織を調べてみる
10	コロナ禍における市民組織	現在でも動いている市民組織はあるか
11	私の課題と社会教育 1	自分にとっての課題を探り学習課題化する
12	私の課題と社会教育 2	自分にとっての課題を探り学習課題化する
13	私の課題と社会教育 3	自分にとっての課題を探り学習課題化する
14	夏休みの課題設定	自分にとっての課題を探り学習課題化する

秋学期

回	テーマ	内容
15	夏休みにおける課題研究の検討	各自の課題にあわせて夏休みの計画を練る
16	レポート報告 (1)	夏休みの課題研究の発表
17	レポート報告 (2)	夏休みの課題研究の発表
18	社会教育施設見学 (3)	各自の課題にあわせて講座に参加
19	学習課題を講座・学習会として企画する①	目的、対象の検討
20	学習課題を講座・学習会として企画する②	内容の検討
21	学習課題を講座・学習会として企画する③	講師や場所の検討
22	講座・学習会の最終企画	話し合い
23	講座・学習会の講師打ち合わせ	実践
24	講座・学習会の最終検討、役割分担	実践
25	講座・学習会実施①	実践
26	講座・学習会実施②	実践
27	講座・学習会等の反省会	話し合い
28	講座・学習会等の記録作成分担・相互評価	演習の反省と感想

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

社会教育施設（公民館など）の調査・見学、講座参加、地域の情報収集、企画書作成、記録作成等。本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて資料配布。参考文献は授業内で提示。

【参考書】

授業内で提示。

【成績評価の方法と基準】

授業や演習への積極的参加 (70%)、レポート等提出物 (30%) を総合的に評価。

【学生の意見等からの気づき】

社会教育主事資格のためだけでなく、学校教育から卒業した後、貴重な学びの場となる社会教育をいかに自分自身に役立てるようになるか、という視点も大切にしているため、参加学生の興味関心に沿って授業を組み立てています。

【学生が準備すべき機器他】

授業がオンラインになった場合はパソコン（カメラオン）で授業を受けられる環境が望ましい。

【Outline and objectives】

We learn about social education in Japan. Ane you get a method of the learning to solve social problems as a social member.

生涯学習支援論

栗山 究

配当年次／単位：2～4 年次／4 単位

開講時期：年間授業/Yearly

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

私たちは一人ひとりが自分自身の人生を主体的に生きるために、いつでもどこでも自らの実生活に即して相互に学びあう営みを続けています。

授業ではそうした生涯学習の基本的な特徴を探り、誰もが生きやすい社会をつくろうとしている地域住民の学びあいの実践と関連づけながら、地域の学習活動を支える人びとの基盤となる理論や実践に関する知識や技法を習得し、住民の学びあいを支える人たちの役割を考察します。

【到達目標】

(1) 私たちが地域で学んでいることの意味を捉えられるようになり、その概要を説明できるようになります。

(2) (1) で捉えられた学習者相互の学びあいを支援する人たちの役割を理解し、そこでのより良い学びあいを促す条件整備のあり方や技法を主体的に考えられるようになります。

(2) で理解した考えを、これからの多様な実践の場面で活かしていけるようになることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

講義と演習（グループワーク・ディスカッションなど）を組み合わせて進めていきます。春学期の初頭から演習形式の展開（相互学習）が中心となりますので、自分なりに学習した内容をふりかえり、その内容を探究していくとする姿勢や行動は積極的に応援していきます。

少人数の受講者で構成される社会教育主事・社会教育士資格課程科目であるという例年の特徴を活かし、授業内での相互学習を踏まえ、可能な限り実際の社会教育施設等を訪問し、住民・社会教育職員とともに学習を深めていく機会等を留意したいと考えています。従って、下記の「授業計画」は、受講者人数・受講者相互の問題意識や興味関心の程度および現場の条件に応じて柔軟に変更していく可能性があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	社会教育職員のおかれる現在を確認し、昨年までの事例を参考に授業の進め方を話し合います
2	生涯学習・社会教育とは	受講者各位の教育経験をふりかえり、本講義で使用する専門用語の内容を確認します
3	学習論の基礎① 成人の学習	ノールズのアンドラゴジー概念から成人の学習を支える考え方を考察します
4	学習論の基礎② 相互学習	受講者相互の話しあいの意味を考え、この授業での取り組みを検討します
5	生涯学習支援の事例に学ぶ① 例：NPO・民間事業者での講座	受講者各位の関心に即して文献・実践記録などを輪読・検討します
6	生涯学習支援の事例に学ぶ② 例：公民館での講座	受講者各位の関心に即して文献・実践記録などを輪読・検討します
7	生涯学習支援の事例に学ぶ③ 例：博物館での講座	受講者各位の関心に即して文献・実践記録などを輪読・検討します
8	生涯学習支援の事例に学ぶ④ 例：若者・青年の学び	受講者各位の関心に即して文献・実践記録などを輪読・検討します
9	生涯学習支援の事例に学ぶ⑤ 例：子育て世代の学び	受講者各位の関心に即して文献・実践記録などを輪読・検討します
10	生涯学習支援の事例に学ぶ⑥ 例：高齢者の学び	受講者各位の関心に即して文献・実践記録などを輪読・検討します
11	生涯学習支援の事例に学ぶ⑦ 例：障害のある人たちとともにある学び	受講者各位の関心に即して文献・実践記録などを輪読・検討します
12	生涯学習支援の事例に学ぶ⑧ 例：在住外国人とともにある学び	受講者各位の関心に即して文献・実践記録などを輪読・検討します
13	生涯学習支援の事例に学ぶ⑨ 例：ジェンダーに関する学び	受講者各位の関心に即して文献・実践記録などを輪読・検討します

14 中間のまとめ これまでの学習を踏まえて各自の夏休みの課題を考えます

秋学期

回	テーマ	内容
15	実際の学習講座の参画体験① 事例のもちより	実際に参加・体験してきた生涯学習支援の現場を報告しあいます
16	実際の学習講座の参画体験② 内容の検討	生涯学習支援の現場で行われていた学習支援の方法を検討しあいます
17	実際の学習講座の参画体験③ 課題の抽出	生涯学習支援の現場で行われていた学習支援上の課題を検討しあいます
18	社会教育職員の役割	学習者の学びに寄り添う公務労働者の役割を検討します
19	学習支援者の力量形成	学習支援者はどのような役割を果たしているかを考えます
20	社会教育事業の実践事例分析①	地域社会における住民の学びの諸相を検討し、事業計画を展望します
21	社会教育事業の実践事例分析②	NPO、社会教育関係団体との協働のあり方を考えます
22	社会教育事業の実践事例分析③	講座に参画する学習者の学習課題を検討します
23	社会教育事業の実践事例分析④	学習者主体の学びの条件整備のあり方を考え、その展開方法を検討します
24	社会教育事業の実践事例分析⑤	学習支援者が提供する／した学習素材を検討します
25	社会教育事業の実践事例分析⑥	学習者の学びあいと地域社会での実践の関わりを考えます
26	社会教育事業の実践事例分析⑦	企画運営会議での学びあいと成立した講座との関係を考えます
27	社会教育事業の実践事例分析⑧	講座を踏まえた新たな学習課題と地域社会での実践の展開を考えます
28	全体のまとめ	この授業での学習をどう生かしていくかを考えます

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

春学期は、受講者各位の関心に即して、教員が指定する文献・実践記録などを輪読し、検討する予定です。

秋学期は、持続可能な地域社会づくりに関する現代的課題の学習を取り扱った実際の社会教育事業の実践記録「3.11 以後の社会とエネルギー問題」を事前に配布する予定です。

それぞれ、授業当日までに読んできて、自身の考えを整理してきてください。なお、春学期の学習は、受講者各位の関心に即して、通年を通じた学習として展開していく場合もあります。

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

各回テーマに応じて適宜、授業内で指示するほか、担当教員がレジメを作成して配布します。

【参考書】

必要に応じて、各回の授業内で提示します。

【成績評価の方法と基準】

授業（学外授業を含む）への積極的な参加（40%）と、夏休みと学年末のレポート課題（各 30%）から総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

初回の授業で通年授業の大まかな進め方・授業運営方針をガイダンスします。社会教育固有の方法論ともいわれる相互学習を意識しながら授業は展開しますので、受講を希望される学生は、必ず出席するようにしてください。なお、相互学習のもつ意味は、授業内で学習していきます。

【その他の重要事項】

本科目は、社会教育主事の任用資格ならびに社会教育士資格を取得するための文部科学省令で定められる「社会教育に関する科目」群の必修専門科目の一つに位置づきます。

本授業では、公立の社会教育施設で教育事業を担当した実務経験に基づき、そこでの教育活動の実践について解説する機会を適宜、設けていきます。

【Outline and objectives】

In this class, we will learn fundamental features in Adult Learning and understand that various learning is being created among our lives living in contemporary society while associating with ourselves or Community education practice in each region.

Therefore, we will consider the following two aspects according to specific cases. The first is the role and subject of Adult and Community education to confront the various issues of contemporary society. The second is the role and meaning of Adult and Community education officer or Learning facilitator who are supporting residents' interactive learning.

視聴覚教育 I

原田 雅子

配当年次／単位：2～4 年次／2 単位

開講時期：秋学期授業/Fall

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博物館は多様な視聴覚教材（実物、データなど）を用いて教育を行う場である。現在博物館が扱うアナログ／デジタル情報についてデータの利活用も含めて俯瞰し、博物館で実施されている視聴覚教育法の概要と特徴を知る。また一部を体験することで、博物館での教育手法やその意義について学び、博物館または学校などの教育現場で生かせる知識を習得する。

【到達目標】

博物館で行われている視聴覚教育のありかたや様々な手法について知り、考えることで、適切な場面で必要な手法を行えるようになる。また、博物館資料データの取り扱い・利活用の方法、著作権法などのメディアリテラシーの基礎を知ること、教育現場におけるデータの取り扱いを知る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

講義と参加者によるディスカッションを行う。また、可能な場合は、校外実習として博物館で行われる教育手法を体験する。受講人数や講義の進行具合等により、授業計画は変更される可能性がある。課題（レポートや試験）に関しては、提出当日あるいは次回の授業においてフィードバックを行う。授業中のフィードバックが困難な場合は、メールによって行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	講義：博物館の機能	イントロダクション：博物館の役割と種類を俯瞰し、それぞれの役割と種類における情報媒体の在り方を知る。
2	講義：博物館と視聴覚教育の歴史	近現代の博物館教育の歴史を振り返り、その中で視聴覚教育がどのように発展してきたかをたどる。
3	講義：博物館での情報の記録	博物館は情報を集積する場所であるが、そこでどのように情報が収集、保存され、また、記録・管理されるのかを知る。
4	講義：博物館の収藏品・展示物と情報デジタル化（1）	博物館では現在は多くの収藏品の情報をデジタル化しているが、それによるメリット・課題を、実際に博物館がポータルサイト等を通じて公開しているデータを通じて考える。
5	講義：博物館の収藏品・展示物と情報デジタル化（2）	デジタル化された博物館情報の中でも、とくに 3D 情報や位置情報など、21 世紀になって新たに注目されているデータの収集・活用をとりあげる。
6	講義：博物館の視聴覚教材	実際に博物館でどんなものが視聴覚教材として使われているかを考え、分類し、その分類の特徴に基づいてそれぞれの教材としての意義を考察する。
7	講義：博物館と様々な立場の人々の視聴覚教育	博物館はそもそも生涯学習の場として学齢期のみならずあらゆる世代・立場（病気や障がい、貧困の有無など）の人々の教育を目的としている。それらの事例にスポットを当て、博物館がしている教育、できる教育を考える。また、点字を打つ実演を行うことで、視覚偏重になりがちな博物館の在り方について考える。
8	講義：博物館と知的財産・メディアリテラシー	博物館での情報の発信の際にとくに重要になる著作権などの関連法規の基礎知識を学ぶ。
9	講義：博物館の展示物とブログを使った意見交換学習プログラムの体験（1）	（可能な場合は博物館を訪れ、）教員が用意したブログに投稿する形の学習プログラムを実施する。鑑賞教育の一つ、Visual Thinking Strategy についても紹介する。
10	演習：博物館の展示物とブログを使った意見交換学習プログラムの体験（2）	前回博物館で実施した学習プログラムの作品についてディスカッションを行い、その意義を考察する。また、学習プログラムそのものの改善点についても考察を行う。

11	講義：情報でつながる博物館	実際に博物館で行われた研究の中で、インターネットやテレビなどの媒体が効果的に使用された例や、ゲームやクラウドファンディングなど、新しい媒体を通じて博物館が基盤を強めていく取り組みを紹介する。
12	講義：自分の行いたい視聴覚教育を企画してみよう	博物館教育における未来予測に関する資料を紹介し、これまでの内容を踏まえて、自分が実施したい視聴覚教育プログラムについて考え、企画書や指導案を作ってみる。
13	講義：これからの視聴覚教育を考える	前回作成した企画書・指導案の内容の共有を行い、これまでの講義を振り返る。博物館における視聴覚教育とは何かを考える。
14	まとめ	テストを行うことで、全体の理解度を確認する。また、その内容について解説を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

時間を見つけて博物館の web サイトを見たり、博物館展示を見学したりすることで、講義の内容が理解しやすくなります。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

博物館情報・メディア論（放送大学教育振興会）

【成績評価の方法と基準】

①授業への積極的な参加態度（出席等）（30 点満点）、②講義期間中の提出課題（30 点満点）、③講義最終回に実施するテスト（40 点満点）による。合計 100 点満点として 60 点以上が合格。ただし、①～③のうち 1 つでも 0 点のものがあれば不合格。

【学生の意見等からの気づき】

受講者が毎年 10 名未満のため、アンケートは実施していません。

【学生が準備すべき機器他】

授業は基本的にオンラインで行う。Microsoft Office などのオフィスツール搭載のパソコン推奨。

【Outline and objectives】

The goals of this course are to

- (1) Understand the meaning and utilization of information at museums.
- (2) Obtain basic skills about utilization of various media at museum education.

視聴覚教育Ⅱ

原田 雅子

配当年次／単位：2～4 年次／2 単位

開講時期：秋学期授業/Fall

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博物館における情報提供のコンテンツの制作実習を通じ、多様な来館者に向けた情報発信のために、対象と学習目的を設定し、適切な情報の選択を行い、提供する情報を整理して発信できるようになることを目的とする。

【到達目標】

博物館において扱う情報の意義及び活用方法を理解する。
教育に関わる視聴覚メディアについて、実際にコンテンツを作成しての中でその特性を理解し、情報発信において活用する能力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

博物館における情報提供のコンテンツ作成実習を通じ、多様な来館者に向け、対象と学習目的を設定し、適切な情報の選択を行い、情報発信することを学ぶ。受講人数やコンテンツ作成の進行具合等により、授業計画は変更される可能性がある。

課題（レポートや試験）に関しては、提出当日あるいは次回の授業においてフィードバックを行う。授業中のフィードバックが困難な場合は、メールによって行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	博物館展示における情報発信	多様な学びのニーズに合わせた情報の提供について学ぶ。
2	情報発信の事例紹介	携帯情報端末の導入事例を元に、効果的な利用法を考える。
3	情報発信の対象設定	情報を伝える対象と目標の設定について学ぶ。
4	ソフト実習	コンテンツを制作するソフトウェアの使い方を学ぶ。 ソフトウェアは受講者の状況等に応じて使用するものを変更する場合がある。
5	情報デザイン（1）	制作するコンテンツの全体構成および用いるメディアについて検討する。
6	情報デザイン（2）	制作するコンテンツの全体構成および用いるメディアについて検討する。
7	コンテンツ作成（1）	情報を伝えるために必要な素材を集める。
8	コンテンツ作成（2）	これまでに集めた素材を編集する。
9	博物館コンテンツの体験	（可能な場合は、）実際に博物館を訪れ、博物館のコンテンツ利用を体験する。
10	コンテンツ作成（3）	中間発表と、相互評価を行う。
11	コンテンツ作成（5）	評価をもとに修正点を整理し、コンテンツの更新を行う。
12	完成したコンテンツの講評	全体の構成をチェックし、完成したコンテンツの発表と相互評価を行う。
13	コンテンツの改善	作成したコンテンツの課題の抽出と改善を行う。
14	理想の博物館コンテンツを考える	博物館が行うべき情報発信の姿について議論する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

博物館における情報発信の演習を行うので、時間を見つけて博物館の web サイトを見たり、博物館展示を見学したりすることをすすめます。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特ありません。必要に応じて資料を配付します。

【参考書】

博物館情報・メディア論（放送大学教育振興会）

【成績評価の方法と基準】

①講義の中で作成したコンテンツおよびレポート（70 点満点）、②講義への積極的な参加態度（出席等）（30 点満点）を考慮して判断します。60 点以上で合格としますが、①②いずれか 0 点の場合は不合格とします。

【学生の意見等からの気づき】

受講者が毎年 10 名未満のため、アンケートは実施していません。

【学生が準備すべき機器他】

授業は基本的にオンラインで行う。Microsoft Office などのオフィスツール搭載のパソコン推奨。

【Outline and objectives】

The goals of this course are to

- (1) Understand the meaning and utilization of information at museums.
- (2) Obtain basic skills about utilization of various media at museum education.

視聴覚教育Ⅱ

原田 雅子

配当年次／単位：2～4 年次／2 単位

開講時期：秋学期授業/Fall

実務教員：

【Outline and objectives】

The goals of this course are to

- (1) Understand the meaning and utilization of information at museums.
- (2) Obtain basic skills about utilization of various media at museum education.

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博物館における情報提供のコンテンツの制作実習を通じ、多様な来館者に向けた情報発信のために、対象と学習目的を設定し、適切な情報の選択を行い、提供する情報を整理して発信できるようになることを目的とする。

【到達目標】

博物館において扱う情報の意義及び活用方法を理解する。
教育に関わる視聴覚メディアについて、実際にコンテンツを作成しての中でその特性を理解し、情報発信において活用する能力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

博物館における情報提供のコンテンツ作成実習を通じ、多様な来館者に向け、対象と学習目的を設定し、適切な情報の選択を行い、情報発信することを学ぶ。受講人数やコンテンツ作成の進具合等により、授業計画は変更される可能性がある。

課題（レポートや試験）に関しては、提出当日あるいは次回の授業においてフィードバックを行う。授業中のフィードバックが困難な場合は、メールによって行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	博物館展示における情報発信	多様な学びのニーズに合わせた情報の提供について学ぶ。
2	情報発信の事例紹介	携帯情報端末の導入事例を元に、効果的な利用法を考える。
3	情報発信の対象設定	情報を伝える対象と目標の設定について学ぶ。
4	ソフト実習	コンテンツを制作するソフトウェアの使い方を学ぶ。 ソフトウェアは受講者の状況等に応じて使用するものを変更する場合がある。
5	情報デザイン（1）	制作するコンテンツの全体構成および用いるメディアについて検討する。
6	情報デザイン（2）	制作するコンテンツの全体構成および用いるメディアについて検討する。
7	コンテンツ作成（1）	情報を伝えるために必要な素材を集める。
8	コンテンツ作成（2）	これまでに集めた素材を編集する。
9	博物館コンテンツの体験	（可能な場合は、）実際に博物館を訪れ、博物館のコンテンツ利用を体験する。
10	コンテンツ作成（3）	中間発表と、相互評価を行う。
11	コンテンツ作成（5）	評価をもとに修正点を整理し、コンテンツの更新を行う。
12	完成したコンテンツの講評	全体の構成をチェックし、完成したコンテンツの発表と相互評価を行う。
13	コンテンツの改善	作成したコンテンツの課題の抽出と改善を行う。
14	理想の博物館コンテンツを考える	博物館が行うべき情報発信の姿について議論する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

博物館における情報発信の演習を行うので、時間を見つけて博物館の web サイトを見たり、博物館展示を見学したりすることをすすめます。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特ありません。必要に応じて資料を配付します。

【参考書】

博物館情報・メディア論（放送大学教育振興会）

【成績評価の方法と基準】

①講義の中で作成したコンテンツおよびレポート（70 点満点）、②講義への積極的な参加態度（出席等）（30 点満点）を考慮して判断します。
60 点以上で合格としますが、①②いずれか 0 点の場合は不合格とします。

【学生の意見等からの気づき】

受講者が毎年 10 名未満のため、アンケートは実施していません。

【学生が準備すべき機器他】

授業は基本的にオンラインで行う。Microsoft Office などのオフィスツール搭載のパソコン推奨。

